教員養成課程におけるグローバル次元の研究

― IB 教員養成の国際比較 ―

（報告書）

２０１６年１２月

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター

教員養成課程におけるグローバル次元の研究

― IB 教員養成の国際比較 ―

（報告書）

２０１６年１２月

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター

目　次

研究プロジェクトの概要　上杉　嘉見　5

論文編

メルボルン大学における IB 教員資格取得プログラム
本柳　とみ子　9

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州における
国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと教員の養成
上杉　嘉見　23

英国ダラム大学における実践的 IB 教員養成
山崎　智子　47

資料編

玉川学園における国際バカロレアディプロマプログラムと教員養成
カメダ　クインシー　59

研究プロジェクトの概要

本報告書は、2014～2016 年度に実施された東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター・教員養成プログラム研究開発部門（第 2 部門）のプロジェクト「教員養成課程におけるグローバル次元の研究―IB 教員養成の国際比較―」の研究成果をまとめたものである。

このプロジェクトでは、国際バカロレア（International Baccalaureate、以下 IB）の教師教育、特に大学入学前の 2 年間の課程「ディプロマ・プログラム（Diploma Programme、以下 DP）」を教える教員養成の制度について、日本の高校教員養成の高度化に資する視角を獲得することを目的に調査・検討した。

IBDP は、1968 年に創設されたスイス・ジュネーブの非営利教育団体・国際バカロレア機構（International Baccalaureate Organization、以下 IBO）が発行する中等教育課程修了証書（ディプロマ）を取得するためのプログラムである。このディプロマは、大学入学の際、国境を越えて通用するものであり、近年、日本で IB 教育を推進する国の政策のもと、ディプロマ取得者のための選考枠を設ける大学が増えつつある。それと同時に、IBDP を設置する学校が、インターナショナルスクール以外の高校にも広がっている。

DP に参加する学校が増加すれば、その分、教員の養成・研修が必要になるだろう。

IB プログラムを教えるために教員は、IBO が主催する研修を受講しなければならない。しかしこの研修は数日程度と短いことから、IBO はより長い学修期間の教員養成課程を考案した。それは、世界各国の大学が設置し、修了者に IBO が独自の認定書 Certificate in teaching and learning を発行するという制度である。本プロジェクトが研究対象にしたのは、この大学での IB 教員養成課程である。具体的には、IBDP の設置規模が世界的に見て大きいグループに入る、オーストラリア、カナダ、イギリスの大学に設置され、学士号所持者を対象にした IB 教員養成課程について、3 名のプロジェクトメンバーで分担して調査を行った。また、日本国内で唯一高等教育機関として IB 教員養成を行っている玉川大学大学院修士課程の事例については、同課程の授業を担当するカメダクインシー氏を講師とする研究会を開催し、IB 教育の基本的な考え方と、教育養成の方法と内容に対する理解を深めた。

IB 教員養成の具体像とその成立条件に迫る本報告書が、日本各地で行われている教員養成の高度化の研究・実践の現場に、参考になる視点や情報を提供することができれば幸いである。

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
「教員養成課程におけるグローバル次元の研究
―IB 教員養成の国際比較―」プロジェクト担当
上 杉　嘉 見

〈参考資料〉

①プロジェクト期間中に開催した研究会

第 1 回（2015 年 6 月 20 日）

「玉川学園における国際バカロレア・ディプロマプログラムと教員養成」

カメダ　クインシー（玉川大学学術研究所 K–16 一貫教育研究センター）

第 2 回（2015 年 12 月 12 日）

「ブリティッシュ・コロンビア大学における中等教員養成と国際バカロレア・ディプロマプログラム教員資格コース」

上杉　嘉見（東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター）

第 3 回（2016 年 1 月 23 日）

「ダラム大学における実践的 IB 教員養成」

山崎　智子（福井大学、東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター共同研究員）

第 4 回（2016 年 2 月 20 日）

「メルボルン大学における現職教員向け IB 教員資格コース」

本柳　とみ子（早稲田大学非常勤講師、東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター共同研究員）

（所属先名称および職名は開催当時）

②IBDP の Certificate in teaching and learning 取得プログラム設置大学（2014 年）

<table>
<tr><th>大学名</th><th>対象者</th><th>取得できる学位および教員資格</th></tr>
<tr><td>ロヨラ大学シカゴ（米国）</td><td>学士課程学生</td><td>学士号、IBDP の Certificate in teaching and learning、地元教員資格</td></tr>
<tr><td>ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）</td><td rowspan="4">学士号所持者</td><td>学士号 1)、IBDP の Certificate in teaching and learning、地元教員資格</td></tr>
<tr><td>ナバラ大学（スペイン）
ビルケント大学（トルコ）</td><td>修士号、IBDP の Certificate in teaching and learning、地元教員資格</td></tr>
<tr><td>玉川大学（日本）
ジョージ・メイソン大学（米国）</td><td>修士号、IBDP の Certificate in teaching and learning</td></tr>
<tr><td>ダラム大学（英国）
カミーロ・ホセ・セラ大学（スペイン）
フェアビュー大学（マレーシア）
香港大学 2)（中国）</td><td rowspan="2">IBDP の Certificate in teaching and learning</td></tr>
<tr><td>メルボルン大学（オーストラリア）
バース大学（英国）</td><td>教員資格所持者</td></tr>
</table>

備考： International Baccalaureate Organization, 2014, *IB Teaching and Learning Certificates, University Directory 2015* の記載に基づいて上杉が作成した。ゴシック表記は本プロジェクトの研究対象を表す。

注：1）学士号取得者を対象とした課程だが、修了後に授与されるのは教育学士（Bachelor of Education）である。2）中国語教員のみ養成している。

論 文 編

メルボルン大学における IB 教員資格取得プログラム

本柳　とみ子

1. はじめに

グローバル化に対応した教育のひとつに国際バカロレア（International Baccalaureate, 以下、IB と記す）が挙げられる。2016 年 2 月 1 日現在、IB 認定校は世界 140 以上の国・地域に 4,420 校あり、日本でも増加傾向にある。文部科学省は「日本再興戦略―JAPAN is BACK―」（2013 年 6 月閣議決定）において、2018 年までに IB（DP）認定校等を 200 校にまで増加させる目標を掲げた [1]。これまで IB はインターナショナルスクールや一部の私学で実施されていたが、同計画を受け公立学校でも取り入れるようになった。また、16 歳から 19 歳を対象とするディプロマプログラム（以下、IBDP）を履修して、国際バカロレア試験を受験する日本人生徒の数は 2006 年の 340 人から 2014 年には 644 人に増加している。

IB を推進するには、IB に対応できる教員の確保が重要である。教育の充実はそれを担う教員の力量に大きく依存することは言うまでもない。また、IB カリキュラムは日本の学習指導要領に示された内容とは異なる面が多く、これまで日本の教員養成では重視されてこなかった指導力が教員に必要とされる。文部科学省も国内において IB 教員を養成するためのワークショップ等を積極的に開催するとともに、大学に IB 教員養成課程を設置して IB 教員の養成、再研修を行うための体制整備等を図ることを期待している。

そこで、本稿では海外の事例としてオーストラリアを取り上げ、メルボルン大学の IB 教員資格取得プログラムについて報告する。メルボルン大学はオーストラリアを代表する研究大学であり、国内で最初に大学院レベルの IB 教員養成プログラムを開始し、グローバル化に対応する刷新的な取り組みが国内外から注目されている。日本における IB 教員養成課程設置の一助にしたい。

2. オーストラリアの学校教育と IB 教育

オーストラリアの初等・中等学校は公立学校（government school）が全体の 7 割を占め、残る 3 割は私立学校で、カトリック系（catholic）と独立系（independent）に大別される。ほとんどの学校が総合的な（comprehensive）教育を行い、工業や商業といった専門教育のみを行う学校はない。ただし、障害を有する生徒のための特別支援学校（special school）は設置されている。修業年限は 12 年間で、10 年生までが義務教育である。中等教育は前期と後期に区分される。11 年生と 12 年生の後期中等段階は高等教育への準備段階と位置づけられ、生徒は進路に合わせた科目を選択して履修する。修了時には州ごとに後期中等教育修了証書が付与される。

オーストラリアは 6 つの州と 2 つの特別地区（以下、州）からなる連邦制の国家である。1901 年の連邦成立以降も植民地時代の流れを引き継ぎ、州の自治権が確立し、多くの権限が州政府にある [2]。学校教育および教員に関しても州が管轄している。しかし、近年は教育において国としての共通性、一貫性を持たせようとする動きが活発である。1980 年代の終わりから 10 年ごとに示される全国学校教育目標もその一環である。最新の目標は 2008

年の「メルボルン宣言」に示されており、学校教育は「公正さと卓越性を追求」し、「成功を収める学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で知識豊かな市民の育成」を目指すとしている[3]。目標達成に向け、全国共通カリキュラム（以下、オーストラリアカリキュラム）の導入や教員政策の統一化が進められている。オーストラリアカリキュラムは 2008 年に設立されたオーストラリアカリキュラム評価報告機構（The Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority、以下、ACARA）が開発を進めており、それまで州ごとに開発されていたカリキュラムに代えて各州で徐々に導入されている。また、2010 年には教員の資質を向上させるため、オーストラリア教職機構（Australian Institute of Teaching and School Leadership、以下、AITSL）が設立され、全国レベルで教師教育改革を進めている。AITSL は 2011 年に「オーストラリア教職スタンダード（Australian Professional Standards for Teachers）」を策定し、オーストラリアのすべての教員に求められる専門性を公式に表明した。スタンダードもそれまでは州ごとに策定されてきたが、「オーストラリア教職スタンダード」はそれに代わるものとして教員登録や教員養成プログラムの認定等で全国共通に活用されるようになっている。教員登録はすべての教員に義務づけられるものであり、「オーストラリア教職スタンダード」を達成していることが要件となっている。教員養成プログラムの認定は AITSL が提示する全国共通のプログラムスタンダードに則って行われ、学生が「オーストラリア教職スタンダード」を達成できるプログラムであることが確認されれば認定される。

オーストラリアの IB 教育は 1970 年代から始まった。最初の IB 認定校は首都キャンベラにある州立のナラバンダカレッジ（Narrabundah College）であり、1978 年に認定された。オーストラリアの首都であるキャンベラには世界各国から外交官や企業の駐在員が集まり、他州に比べて国際教育へのニーズが高かったことが大きな要因である[4]。だが、1988 年まで認定校は 2 校にとどまっていた。IB への関心が高まり、IB 認定校が増加するのは 1980 年代半ば以降であり、オーストラリアの教育輸出産業が拡大し、大学が IB 修了者を積極的に受け入れるようになったことが背景にある。

2016 年 1 月 24 日現在、認定校は全国で 165 校ある（表 1）。全学校の 2%ではあるが、その数は徐々に増加している。州の中ではビクトリア州が最も多く（56 校）、南オーストラリア州（45 校）、ニューサウスウェールズ州（24 校）がそれに続く。割合が高いのは首都直轄区である（13%）。認定校の 3 分の 2 はインターナショナルスクールをはじめとする私立学校である。州によっては公立学校での IB を認めていないところもあり、そのことが公立学校での実施数の違いに現れていると考えられる。ビクトリア州や南オーストラリア州は公立学校での実施を認めており、公立の認定校は年々増加している。IBDP を実施している学校は全国に 62 校ある。IBDP 試験の受験者も増加傾向にあり（図 1）、2014 年 11 月の試験ではオーストラリア国籍の受験者は 1,916 人で、世界で最多であった[5]。

表 1　各州の IB 認定校

州	学校数	IB認定校	公立	私立	PYP	MYP	DP	CP
VIC	2217	56	23	33	41	7	14	0
SA	721	45	19	26	30	22	9	0
NSW	3083	24	0	24	11	3	16	0
QLD	1715	18	7	11	10	2	10	1
ACT	130	10	6	4	5	1	5	0
WA	1076	8	0	8	5	4	5	0
NT	190	2	0	2	1	2	1	0
TAS	257	2	0	2	2	1	2	0
計	9389	165	55	110	105	42	62	1

出所：http://www.ibo.org/become-an-ib-school/　（2016 年 1 月 24 日閲覧）

学校数は Australian Bureau of Statistics *Schools Australia2014* http://www.abs.gov.au/

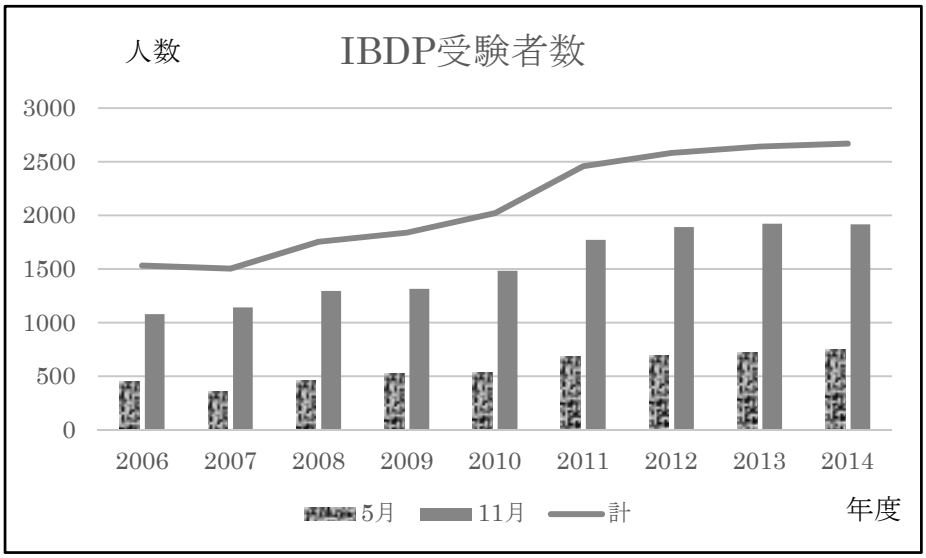


図 1　オーストラリアの IBDP 試験受験者数

出所：http://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/

（2016 年 2 月 20 日閲覧）

IB は大学の入学選考でも広く活用されている。現在、公式に IB での入学を認めている高等教育機関は 56 校あり、ほとんどの大学がこれに含まれる。オーストラリアの大学は個別の入学試験を行っておらず、大学進学を希望する生徒は 12 年生の秋に州統一の中等教育修了試験を受験し、その結果と学業成績を総合して算出される「大学入学ランキング得点（Australian Tertiary Admission Rank）、以下、ATAR」を取得する。各大学は学部・学科ごとに「足切り」となる ATAR の得点を提示し、英語力や専攻分野ごとの基準を加味

して入学者を決定する[6]。IB 履修者の場合は IBDP の成績を ATAR に換算して選考する（表 2）。なお、表が示すように換算表は 2 種類あり、州によって使い分けられている。

表 2　IB スコアと ATAR の換算表

IBのスコア	NSW, VIC, QLD, ACT, WA ATAR	SA, NT, TAS ATAR
45	99.95	99.95
44	99.85	99.95
43	99.75	99.95
42	99.45	99.95
41	98.85	99.90
40	98.30	99.80
39	97.55	99.35
38	96.70	98.45
37	95.80	97.25
36	94.40	96.00
35	93.25	95.30
34	92.05	94.45
33	90.60	93.80
32	88.85	93.00
31	86.90	91.80
30	83.85	89.30
29	81.20	86.80
28	79.25	84.80
27	77.05	81.30
26	74.65	78.75
25	71.60	75.10
24	68.10	71.40

出所：Association of Australasian International Baccalaureate Schools (2015)
http://www.aaibs.org/university-entrance　（2016 年 8 月 21 日閲覧）

オーストラリアでは州ごとに学校教育修了資格が付与されるため、IBDP がオーストラリアの後期中等教育修了資格と同等の認定を得るためにはオーストラリアカリキュラムとの整合性が必要である。オーストラリアカリキュラムは教科学習領域、汎用的能力、学祭的優先事項の 3 つの要素から構成される。教科学習領域は、英語、算数・数学、科学、人文・社会科学、芸術、言語、保健体育、ICT の 8 教科であり、それぞれの教科で習得すべき知識と技能が具体的に示されている。汎用的能力として示されているのは、リテラシー、ニューメラシー、ICT 技能、批判的・創造的思考力、倫理的行動、異文化理解、個人的・社会的能力の 7 項目であり、これらは 21 世紀を生きるこれからの子どもたちに不可欠の能力と認識されている。さらに、学際的優先事項として先住民の歴史、アジア、持続可能性の 3 領域が設定されている。学際的優先事項は、知識や技能というよりも社会を見る視点や見地といったものであり、現代社会を理解し、社会で起きる種々の問題を解決する上で重要な視点とされる。なお、汎用的能力も学際的優先事項もすべての学習領域に組み込み、各教科の学習を通して育成すべきと考えられている[7]。一方、IBDP カリキュラムは「コア」と呼ばれる 3 つの必修要件と 6 つの教科グループから成る。「コア」には以下の 3 つの要素がある。第一は、「課題論文（EE: Extended Essay）」であり、個人研究を行い、成果を論文にまとめるもので、論文は 4000 語（日本語の場合は 8000 字）必要である。第二は、「知の理論（TOK: Theory of Knowledge）」であり、「知識の本質」について探求し、「知識に関する主張」を分析するもので、最低 100 時間の学習を必要とする。第三は、「創

造性・活動・奉仕（CAS: Creativity/Action/Service）」で、創造的思考を伴う体験学習を行うもので、最低 150 時間の学習を要する [8]。教科グループは、言語と文学、言語習得、個人と社会、理科、数学、芸術の 6 つに分けられ、各グループからそれぞれ 1 科目ずつ計 6 科目選択して学習する。

[オーストラリアカリキュラム]

汎用的能力
①リテラシー
②ニューメラシー
③ICT技能
④批判的・創造的思考力
⑤倫理的行動
⑥異文化理解
⑦個人的・社会的能力

教科学習領域（8領域）
①英語
②数学
③科学
④人文・社会科学
⑤芸術
⑥言語
⑦保健体育
⑧ ICT

学際的優先事項
①先住民の歴史
②アジア
③持続可能性

[IB カリキュラム]

教科グループ（6分野）
①言語と文学（母国語）
②言語習得（外国語）
③個人と社会
④理科
⑤数学
⑥言語

コア学習
①課題論文 （Extended Essay:EE）
②知の理論 （Theory of Knowledge:TOK）
③創造性・活動・奉仕 （Creativity/Action/Service:CAS）

Dixon らは両カリキュラムを比較して、以下を明らかにしている [9]。まず、IBDP は世界各国で実施されることを想定したカリキュラムであるためグローバルな視点でカリキュラムが編成されているのに対して、オーストラリア国内で実施されるオーストラリアカリキュラムはナショナルな志向性が強い。たとえば、IBDP は世界各国の話題を幅広く取り入れながら、特定の国よりも世界全体の問題を扱うことが多いのに対して、オーストラリアカリキュラムでは先住民やオーストラリアの政治形態などオーストラリア独自の問題も多く扱っている。教授法に関しては、オーストラリアカリキュラムが細部にわたって指導法等について記述し、細かな規定を示しているのに対して、探求を重視する IBDP では規定が少なく、教員が自由かつ多様なアプローチで指導することが可能となっている。教科ごとの比較もされている。IBDP では数学と理科が全員に必修となっているのに対して、オーストラリアカリキュラムではどちらも選択履修であるため、生徒によっては後期中等段階で数学や理科をまったく履修しない者もいる。また、数学の総時間数は IBDP の方が多い。言語科目を見ると、IBDP ではバイリンガル教育が実施されており、生徒は全員母

国語と外国語を履修するが、オーストラリアカリキュラムは英語のみの履修である。歴史では扱われる時代が両者で異なる。IBDP ではヨーロッパの歴史やイスラム世界、20 世紀の世界の歴史などが学習されているが、オーストラリアカリキュラムが扱う古代やアジアの歴史、アジアとオーストラリアの関係史などは扱われていない。

これらの結果から Dixon らは、両カリキュラムには共通する部分も多く、関連性も見られ、批判的思考、創造性、異文化などに関してはいずれのカリキュラムでも重視されているが、課題解決学習や探求の深さ、実社会への応用という面は IBDP の方がより重視する度合いが大きいと分析している。また、グローバルな側面、国際性、インクルージョンの面でも IBDP の方が優位であり、大学への入学準備教育という点においても IBDP の方が効果的であると結論づけている。

3. メルボルン大学の IB 教員資格取得プログラム

メルボルン大学は 1853 年にビクトリア植民地に創設され、シドニー大学に次いで国内で二番目に古い大学である。オーストラリアの主要研究大学で構成する「八大学（Group of Eight）」 のひとつで、オーストラリアの高等教育を牽引する立場にある。2015－2016 年のタイムズ世界大学ランキングでは世界で第 23 位、オーストラリア国内ではトップに位置している。学生数は 4 万 7 千人（2016 年 1 月）で、4 分の 1 が世界 130 カ国からの留学生である。2008 年には大規模なカリキュラム改革を実施し、「メルボルンモデル」と呼ばれる独自のカリキュラムを導入した。これは、学部で一般的知識を幅広く修得したあと、大学院で高度な研究を行い、専門性を深めながら実社会で通用する能力の育成を目指すものである。教員養成も大学院で実施されている。

3.1 一般教員養成プログラム

先述のように、オーストラリアでは教員登録制度が実施されており、すべての教員に教員登録が義務づけられている。登録資格は原則として教員登録機関が認定する教員養成プログラムを修了することによって得られる。現在、認定プログラムは教員政策の全国統一化に伴い変更途上にあるが、これまでは最低 1 年間 [10]の教職専門科目を含む 4 年間の学部課程で、教育学のバチェラー（Bachelor）を取得するコースと、3 年間で教育学以外の学士号を取得したあと大学院で 1 年以上履修し、グラデュエートディプロマ（Graduate Diploma）またはマスター（Master）を取得するコースが主流であった。中等教員の場合は大学院プログラムの履修が多く、また、2 教科の教授資格を取得する必要があるため複数の専門学部（科）を跨いで履修するのが一般的である。カリキュラムは AITSL の認定ガイドラインに基づいて各大学が編成する。教科専門科目・教職専門科目・教育実習で構成され、「オーストラリア教職スタンダード」を到達目標にしている。教育実習は学部課程では 80 日以上、大学院課程では 60 日以上行う。

多くの大学で教員養成が学部、大学院いずれのレベルでも実施されるなか、メルボルン大学の教員養成は大学院でのみ実施される。これは前述したカリキュラム改革によるものであり、教員養成も学部での幅広い知識を修得したあと大学院レベルで高度な教職専門性を養う必要があると考えられているからである。現在、メルボルン大学で教員登録資格が取得できるプログラムは Graduate Diploma of Teaching と Master of Teaching の 2 種類

ある。前者は１年、後者は１年半のコースであり、いずれも専門分野の学士号を取得していることが入学要件となる。

表３　メルボルン大学一般教員養成プログラム（2015 年度）

学期	分野	科目	科目単位数	単位計
Graduate Diploma in Teaching （150 単位）				
半期	教職	教育実習とセミナー1 （実習30日/セミナー10時間）	18.75	75
	教職	学習者、教師、教授法	12.5	
	教職	社会と教職	12.5	
	教職	言語と指導	6.25	
	教科カリキュラム	主専攻教科	12.5	
	教科カリキュラム	副専攻教科	12.5	
半期	教職	教育実習とセミナー2 （実習30日/セミナー10時間）	18.75	75
	教職	評価	12.5	
	教職	中等教育におけるICT	6.25	
	教科カリキュラム	主専攻教科	12.5	
	教科カリキュラム	副専攻教科	12.5	
	選択	1科目	12.5	
Master of Teaching （200 単位）				
GD取得後5年以内に以下のいずれかのコースを修了				
半期	入職コース	教育実践研究	12.5	50
		実践的教育研究プロジェクト	12.5	
		プロフェッショナルポートフォリオ	25	
	研究コース	教育研究方法論	12.5	50
		研究プロジェクト	37.5	
	職能開発コース	教育実践研究	12.5	50
		実践的教育研究プロジェクト	12.5	
		選択2科目	25	

出所：https://handbook.unimelb.edu.au/view/current/MC-TEACHSA により筆者作成
（2016 年３月８日閲覧）

表３は 2015 年度のカリキュラムである[11]。Graduate Diploma of Teaching では教職専門科目を半期に４科目、教科カリキュラムの科目を２科目履修する。教職専門科目は教師

論、社会教育学、言語教育、評価、ICT に関する科目が設定されており、教育実習も教職専門科目に組み込まれている。実習は各学期 30 日ずつ行う。教科カリキュラムは教授専門科目の 2 教科について履修する。同プログラム修了後 5 年以内に Master of Teaching に進み、半年以上研究を行って所定の単位を取得するとマスターの学位が得られる。

3.2　IB 教員資格取得プログラム

メルボルン大学の IB 教員資格取得プログラムは一般教員養成プログラムとは別に実施されている。通常、IB 教員資格は教員養成課程を修了して教員登録の資格を得たあと、教職に従事しながら国際バカロレア機構（International Baccalaureate Organization、以下、IBO）認定のサーティフィケート取得プログラムを修了するか、IBO 主催のワークショップに参加して取得するのが一般的である。IBO 認定のサーティフィケート取得プログラムは IBO が提示する基準に則って構成されたプログラム（図 2）であり、IBO によって認定される。ワークショップもサーティフィケート取得プログラムの基準に準じた内容で行われるが、3 日間という限られた日数で集中的に実施されるため、学術的な探求を求める者は大学の IB サーティフィケート取得コースを履修する。

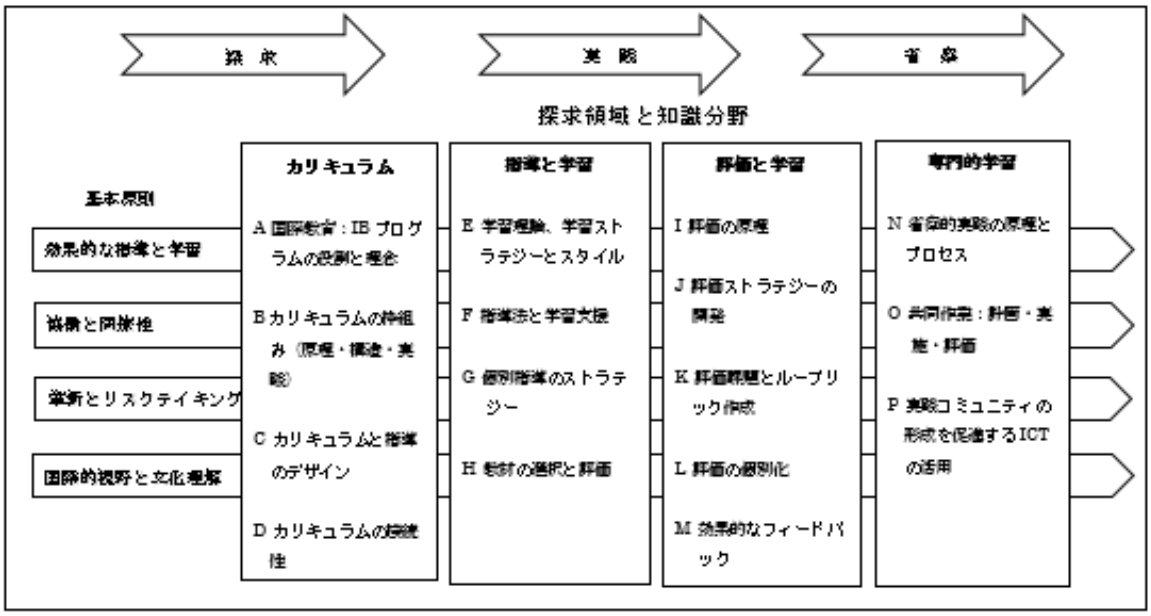


図 2　IBO 認定サーティフィケート取得コースの枠組み

出所：International Baccalaureate Organization (2014) *IB Teaching and Learning Certificates, University Directory 2015* により筆者作成。

現在、サーティフィケート取得プログラムを実施している大学は国内に 4 校ある [12]。そのひとつがメルボルン大学であり、Graduate Certificate in Education (IB)と Master of Education (IB)の 2 種類のプログラムが提供されている。取得できるのは PYP（3 歳から 12 歳対象のプログラム）と DP の教授資格である。ただし、これらのコースを修了しても教員登録につながる一般教員資格は取得できない。また、両プログラムはすでに教員資格

を取得している者が対象となるため、履修希望者は同大学院の一般教員養成プログラムあるいは他大学の学部プログラムを修了して一般教員資格を取得する必要がある。

メルボルン大学の IB 教員資格取得コースは 2005 年に PYP プログラムで開始された。国の枠を越えたインターナショナル教育が盛んになるなか、それまではインターナショナル教育につながる教員研修はほとんどがインターナショナルスクールを中心に行われ、学術的評価やアカウンタビリティは不十分で、研修指導者も不足していた。IB 教員養成プログラムはこうしたニーズに応えるために開始された。プログラムの開発はメルボルンにある IB 認定校ウェズリーカレッジ（Wesley College）と連携して行われ、IBO の教員資格認定制度に適合するプログラムとして開発された。指導はウェズリーカレッジの現職教員やワークショップ指導者が中心に行った。その後、海外の学生のニーズに対応するため、シンガポール、インド、中国、アラブ首長国連邦などの教育機関と連携したオフショアプログラムも実施されるようになっていった [13)]。

履修対象はすでに教員資格を取得し、教員登録の要件を満たしている者で、IB 認定校ですでに教えている教員あるいは IB 教育を希望する者である。Graduate Certificate in Education のコースは、通学履修とオンライン履修がある。いずれもパートタイムの履修であり、前者は 1 年、後者は 2 年を要する。また、同コース修了後 5 年以内に Master of Education のコースに進み、50 単位を取得するとマスターの学位が得られ、同時に IB の上級教授資格も取得できる [14)]。2016 年度の年間学費は 10,864 豪ドル（Graduate Certificate）と 21,728 豪ドル（Master）である [15)]。授業はメルボルン大学の教員のほか IB 認定校の教員や IB ワークショップ講師などが行う。

プログラムは以下を到達目標としている。①IB 教員として必要な知識と技能を修得する。②IB 教育の知的、社会的、心理的側面を理解し、理論と実践を統合させる。③IB カリキュラム政策とカリキュラムの開発について理解する。④勤務校での自らの実践を批判的に評価する。⑤IB の理論を理解する。⑥専門的学習のモデルとしての IB カリキュラムの実施方法を理解する。

表 4 はプログラムの構成を示している。Graduate Certificate of Education のコースでは「IBDP 入門」、「IBDP カリキュラム」、「IBDP の評価と成績通知」、「IBDP の教科」の 4 科目履修する。通学履修のコースは各科目 24 時間の対面授業と個別学習から成り、必要に応じてオンラインによる指導も行われる。対面授業は 8 割以上の出席を必要とし、総学習時間はそれぞれ 170 時間必要とされている。現職教員が主たる対象であるため、対面授業は土曜日と学校の休業日に集中して実施される。たとえば、「IBDP 入門」の 2016 年 1 学期の対面授業は表 5 のスケジュールで実施された。一方、オンライン履修コースはすべの授業がオンラインで提供され、ディスカッション、履修者間の情報交換、指導教員による個別指導もオンラインで行われる。学生は各学期に 1 科目ずつ 9 日間のブロック授業を受け、2 年間で 4 科目履修する。授業は設定された日時にオンラインで提供され（表 6）、こちらも 8 割以上の参加が求められている。各科目で扱われるトピックと主要文献は表 7 に示している。これらの表からは IBDP の教員に必要な知識が幅広く教授されていることがうかがえる。また、同プログラムは IBO の認定するサーティフィケート取得プログラムの基準（図 2）に則ったものであることも確認できる。

表 4　メルボルン大学 IB 教員資格取得プログラム（2015 年度）

	科目名	単位	履修方法	履修内容	評価	出席
Graduate Certificate in Education (IB)						
必修	IBDP入門	12.5	対面授業24時間 ＋ オンライン＋ 個別学習 （総時間170時間）	IBの概念 IBDPの必須要素 IBDPの歴史 IBDPの理念 指導と学習 試験問分析 遠隔教育の役割	レポート1 「国際教育をどう実施するか」 レポート2 「IB教育をどう実施するか」 各50%	8割以上の出席が必要
必修	IBDPカリキュラム	12.5	対面授業24時間 ＋ オンライン＋ 個別学習 （総時間170時間）	IBDPカリキュラムの構成要素 科目分野 思考の習慣 教科の結合 個人、コミュニティ/社会/グローバルの認識 評価	レポート1 「高度学習におけるTOKの役割」 レポート2 「教科におけるTOK/CAS/EEの活用」 各50%	
必修	IBDPの評価と成績通知	12.5	対面授業24時間 ＋ オンライン＋ 個別学習 （総時間170時間）	生徒の学習評価とカリキュラム 評価の関係性 評価と成績報告の結合 多様な評価方法 多様な学習ニーズと評価 形成的評価と総括的評価	レポート1 「2種類の異なる評価の批判的検討」 レポート2 「評価と成績通知の原則の応用―TOK とEEに関連づけて―」 各50%	
必修	IBDP教科の内容	12.5	対面授業24時間 ＋ オンライン＋ 個別学習 （総時間170時間）	教科指導の原則 IBMPの指導、学習、協働性 多様な学習特性と個別指導 学習者の特性に対応した指導 専門教科カリキュラム 指導方法 評価の関係	レポート 「一連の授業の中で教科特有の内容をどう活かすか」 プレゼンテーション（30分） 「国際教育の広範囲な学習、評価、カリキュラムが教科学習に及ぼす影響」 各50%	
Master of Education (IB)						
＊ Graduate Certificate取得後5年以内にMaster of Educationのコースに進み、50単位取得						
25単位選択＊	国際教育に関する研究プロジェクト	25	個別研究＋ 対面指導 （総時間340時間）	学校あるいは地域を基盤にした個別研究	研究レポート（10,000語）と口頭発表	8割以上の出席が必要
	個別研究プロジェクト	12.5	個別研究＋ 対面指導 （総時間170時間）	教育現場における個別研究または文献研究	研究レポート（5,000語）と口頭発表	
	文献研究	12.5	個別研究＋ 対面指導 （総時間170時間）	文献の批判的検討	文献レビュー（2,000語）40% 教育問題研究の比較評価（3000語）60%	
選択科目	2科目	25	Master of Education の選択科目リストから2科目選択			
＊IB Advanced Certificate in Teaching and Learningを取得する場合は「国際教育に関する研究プロジェクト」を選択						

出所：https://handbook.unimelb.edu.au/view/current/GC-EDIBDP　により発表者作成

（2016 年 3 月 8 日閲覧）

表 5　対面授業の日程（2015 年度）

授業	実施日	時間
1	1/21(木))	9:00-12:30
2	1/21(木))	13:15-17:00
3	1/22(木)	9:00-12:30
4	1/22(木)	13:15-17:00
5	2/20(土)	9:00-12:30
6	2/20(土)	13:15-17:00
7	3/19(土)	9:00-12:30
8	3/19(土)	13:15-17:00

表 6　オンライン授業の日程（2015 年度）

科目	実施日	曜日と時間
IBDP入門	2015/3/10-5/19(4/7を除く)	火曜日 7:00pm-8:30pm
IBDPカリキュラム	2015/7/21-9/22(8/26を除く)	火曜日 7:00pm-8:30pm
IBDPの評価と成績通知	2016/3/22-5/24(4/26を除く)	火曜日 7:00pm-8:30pm
IBDP教科の内容	2016/8/2-10/4(9/6を除く)	火曜日 7:00pm-8:30pm

出所：https://handbook.unimelb.edu.au/view/current/GC-EDIBDP　により発表者作成

（2016 年 7 月 21 日閲覧）

表 7　各科目の履修トピック

科目	IBDP 入門	
セッション	履修テーマ	文献の一例
1	IB入門（歴史）	International Baccalaureate Organization. (2012). *What is an IB education?* Cardiff, Wales: IBO
2	IB教育の原理と使命	Walker, George. (2005). *What have I learned about international education?* Paper presented at the Biennial Conference of IB Nordic Schools. Stockholm: 9 September 2005.
3	国際化とグローバリゼーション	Cambridge, J. & Thompson, J. (2004). Internationalism and globalization as contexts for international education. *Compare* , *34* (2), 161-175
4	国際化とグローバリゼーション 評価のスキャフォーディング	Resnik, J. (2012). The Denationalization of Education and the Expansion of the International Baccalaureate. *Comparative Education Review* , 56 (2), 248-269.
5	学習者像	Bullock, K. (2011) *International Baccalaureate Learner Profile: Literature review* . Cardiff: International Baccalaureate Organization.
6	学習者像－学習理論	Wells, J. (2011). International education, values and attitudes: A critical analysis of the International Baccalaureate (IB) Learner Profile. *Journal of Research in International Education* , *10* (2), 174-188
7	学習者像 –思考と価値	Beyer, B. (2008) What research tells us about teaching thinking skills. *The Social Studies* , *99* (5), 223-232
8	「コア学習」における学習者像	Van Oord, L. (2013). Moral education and the International Baccalaureate Learner Profile. *Educational Studies,* 39;2, 208-218
9	IBDP はヨーロッパ中心主義か?	Walker, G. (2010). *East is east and west is west* . Cardiff: International Baccalaureate Organization.

科目	IBDPカリキュラム	
セッション	履修テーマ	文献の一例
1	IBDP入門: 歴史と文脈- 枠組みの連続性-	Davy, I. (2011) *Learners without borders: A curriculum for global citizensh* ip. IB position paper. Cardiff: International Baccalaureate Organization
2	IBDPの特質	Marshman, R. (2010) *Concurrency of learning in the IB Diploma Programme and Middle Years Programme.* IB position paper. Cardiff: International Baccalaureate Organization
3	IBDPの言語	Cummins, J. (2001, February).Bilingual children's mother tongue: why is it important for education? *Sprogforum,* 7 (19), 15-20.
4	創造性・活動・奉仕（CAS）	*Creativity: It's not what you know* (2011). IB World, 62, 14-17
5	課題論文（EE）	IBO (2013), Extended Essay Guide.
6	知の理論（TOK）	Dombroski, E., Mackenzie, J. & Clarke. (2011*). Perspectives on a curious subject: What is IB Theory of Knowledge all about* ? IB Research paper. International Baccalaureate Organization
7	知の理論（TOK）	Dombroski, E., Mackenzie, J. & Clarke. (2011*). Perspectives on a curious subject: What is IB Theory of Knowledge all about?* IB Research paper. International Baccalaureate Organization
8	知の理論（TOK）	Erikson, H. L. (2012). *Concept based teaching and learning* . IB position paper Cardiff: International Baccalaureate Organization
9	包括教育：義務教育後コースとIBDPの比較	Hare, J. (2010). *Holistic Education: An interpretation for teachers in the IB pprogrammes* IB position paper. Cardiff: International Baccalaureate Organization

科目	IBDPの評価と成績通知	
セッション	履修テーマ	文献の一例
1	IBの評価	Black, P. & Wiliam, D. (2001*). Inside the black box: Raising standards through classroom assessment.* Paper presented at BERA 2001.
2	テスト IB の評価原理	*The Principles of IB assessment* . In, Towards a Continuum of International Education.
3	発展的分類法	Chappuis, S. & Stiggins, R. (2002). Classroom Assessment for Learning. *Educational Leadership* , *60* (1), 40-43.
4	評価方法	Griffin, P., & Robertson, P. (2014) Professional learning teams and decision-making. In Griffin, P. (Ed), *Assessment for Teaching* (pp. 13-25). Melbourne: Cambridge University Press.
5	基準に準拠した評価	Popham, W. J. (2014). *Criterion-referenced measurement: Half a century wasted?* Educational Leadership, March 2014. ASCD.
6	IBDPの内部評価 専門的判断の概念 形成的・総括的評価	Nicol, D. (2007). Principles of good assessment and feedback: Theory and practice. *REAP International Online Conference on Assessment Design for Learner Responsibility* , 29th-31st May, 2007.
7	課題論文の評価	Munro, J. (2003). *The influence of student earning characteristics on progress through the extended essay.* Journal of Research in International Education. Thousand Oaks: Sage.
8	知の理論の評価 IBの評価と採点方法	Stiggins, R. (2007). Assessment through the student's eyes. *Educational Leadership, 64* (8). 22- 26.
9	IBにおける学術倫理 広範囲な学習目標の評価 IB における特別ニーズの評価	Carroll, J. (2012). Academic Honesty in the IB. IB Position Paper. International Baccalaureate

科目	IBDP教科の内容	
セッション	履修テーマ	文献の一例
1	専門教科分野 教科の目的・目標・必要要件についての知識と理解	Watermeyer, R. (n.d.). Curriculum alignment, articulation and the formative development of the learner: IB literature review report. Academic division of the IB.
2	教授学習へのアプローチ IB Ⅰ & IB Ⅱ	International Baccalaureate. (2008). Teaching and learning. In, Towards a Continuum of International Education. Cardiff: IBO
3	学習カリキュラム 構造主義 カリキュラムデザイン	Schunk, D. H. (2007). 'Constructivist Theory'. In *Learning Theories: An Educational Perspective* (pp. 234-277). Fifth Edition. Upper Saddle River: Pearson, Merrill Prentice Hall.
4	教科における課題論文（EE） 教科カリキュラムの側面	*Models of Curriculum Planning* – George J Posner 1998, pp. 79 – 100. In, The curriculum: Problems, politics and possibilities (2nd Ed.) L.E. Beyer & M. W. Apple (eds.) New York: Suny Press.
5	教科における課題論文（EE） 文化に対応した指導	Gay, G. (2002). Preparing for Culturally responsive teaching. Journal of Teacher Education 52(2), 106-116.
6	教科の文化的側面 IBの基準と実践についての知識と理解	Dweck, C. (2010). Mind-sets and equitable Education. Principal Leadership, 10(5), 26-29.
7	学びの文化と学びという文化 教授学習における差異化	Zbar, V. (2011). Ensuring a more personalised approach: A strategy for differentiated teaching in schools. East Melbourne, Victoria: Centre for Strategic Education.
8	教科の評価	Specialist Discipline Exam reports for past 2 exam sessions (available on the OCC)
9	評価の提示	International Baccalaureate. (2013). Meeting student learning diversity in the classroom. Cardiff: IBO.

出所：メルボルン大学の履修ハンドブックをもとに筆者作成。

4. まとめ

オーストラリアでは州ごとに温度差は見られるが、IB は私学を中心に拡大傾向にあり、認定校は増加し、IBDP の履修者も増えている。IBDP は国内外のレベルの高い大学への進学を希望する生徒や、将来グローバルに活躍することを希望する生徒と保護者のニーズに応える形で広がっている。オーストラリアの大学でも入試で IB を活用する大学は多い。

本稿ではオーストラリアにおける IB の現状とメルボルン大学の IB 教員資格取得プログラムの内容を検討した。IB 認定校の増加にともない IB 教員資格に対するニーズは高まっており、短期の限られた日数で実施されるワークショップとは異なり、大学院で高度な学術研究と実践力育成を合わせて行うメルボルン大学のプログラムは IB 関係者の間で注目を集めている。マスターの修了資格を取得するコースも設定されており、高等教育の分野で世界的な「ブランド」を有する同大学のプログラムに対する人気は高く、アジアや中東の教育機関と連携したオフショアプログラムも提供されている。IBDP のプログラムは IBO の認定するサーティフィケート取得プログラムの基準に則った構成となっており、IBDP に関して幅広い履修が行われている。履修者の多くが IB 教育に携わる現職教員であるため、授業は休業中に集中して実施したり、オンラインで提供したりして、職務に影響が出ないような配慮がなされている。

しかし、オーストラリア国内ではすべての教員に教員登録が必要とされるため、IB 教員希望者も教員登録資格が得られる一般教員資格の取得プログラムを修了する必要がある。メルボルン大学の IB 教員資格取得プログラムは教員登録の要件を満たしておらず、現時点では一般教員資格を取得したあとに行われる二次的なプログラムにとどまっている。また、メルボルン大学の教員養成は大学院のみの実施であるため、同大学で一般教員資格と IB 教員資格のいずれも取得しようとすると、大学院のプログラムを 2 種類履修することになり、時間の面でも学費の面でも履修者の負担は大きい。学費を自己負担してまで履修する意義がどの程度あるのか吟味する必要があるだろう。

本稿はメルボルン大学のプログラムの内容を検討するに留まり、履修者の数や個々のプロフィール、指導者などについては情報開示に制限があり調査が及ばなかった。プログラムの効果と合わせて今後の課題としたい。

注

1) 2016 年 3 月現在の認定校は 36 校であり、学校教育法第 1 条に規定された学校（1 条校）はそのうちの 13 校である。

2) オーストラリアは 6 つの州と 2 つの特別地区から成る連邦制の国家で、ニューサウスウェールズ州（NSW）、ビクトリア州（VIC）、クイーンズランド州（QLD）、西オーストラリア州（WA）、南オーストラリア州（SA）、タスマニア州（TAS）、首都直轄区（ACT）、北部準州（NT）から構成される。

3) http://www.curriculum.edu.au/verve/_resources/National_Declaration_on_the_Educational_Goals_for_Young_Australians.pdf（2016 年 7 月 21 日閲覧）

4) 行政の中心であるキャンベラに居住するオーストラリア人の多くは政府関係者や外交官など海外との行き来が多い人々であり、子どもたちも海外で教育を受けることが多い。さらに、海外から赴任する駐在員も多く、インターナショナル教育のニーズは高く、IB への関心も高い。

5) IBDP 試験は 5 月と 11 月の年 2 回実施されるが、オーストラリアの学校は年度が 1 月に始まり 12 月に終了することから、IBDP 試験の受験者は 11 月が多い。

6) クイーンズランド州のみ異なる選考方法を採用している。

7) ACARA (2012) *The Shape of the Australian Curriculum.*

8)http://www.ibo.org/university-admission/ib-recognition-resources-and-document-library/#briefs. (2016 年 7 月 15 日閲覧)

9) Dixon, M, Charles, C, Moss, J, Hubber, P and Pitt, P. (2014) *The International Baccalaureate Diploma Programme: Alignment with the Australian Curriculum and Australian Qualifications Framework.*

10) 教員政策の全国統一化に伴い、2017 年から大学院レベルの教員養成はすべて 2 年以上となる。

11) 現在、教員養成の認定が全国統一化の方向に進んでいるため、2016 年以降はプログラムが変更される予定である。

12) フリンダース大学（SA）、マードック大学（WA）、カーティン大学（WA）で実施されている。

13) たとえば、IB のアジア本部があるシンガポールでは、アジアインターナショナルカレッジがメルボルン大学と提携して IB 教員の資格取得コース（PYP プログラム）を実施している。3 ヶ月ごとにメルボルン大学から派遣される教員と同カレッジの教員がともに指導を行い、学生は 1 年間のパートタイム履修で資格取得する。

14) IB 教員の資格には、一般教員資格と上級教員資格がある。

15) 2016 年 7 月時点のレートは 1 豪ドル約 80 円である。

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州における
国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと教員の養成

上杉　嘉見

1. はじめに

カナダは、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（International Baccalaureate Diploma Programme、 以下 IBDP または DP）に参加する学校および生徒数の点で世界有数の国である。たとえば 2015 年 5 月実施の IB 試験を世界各地で受験した 14 万 1、831 人のうち、カナダ国内の学校に籍を置く生徒は 1 万 544 人であり、これは全体の 138 カ国中、アメリカに次いで 2 番目の数であった [1)]。また、DP を設置する学校数 171 校は、アメリカとエクアドルに次ぐ 3 番目の規模である [2)]。このことは、カナダ国内に IBDP を教える教員が相当数存在していることを示している。

その教員は、これまでどのように養成されてきたのだろうか。IBDP 科目を初めて担当する現職教員の多くは、事前に国際バカロレア機構（International Baccalaureate Organization、以下 IBO）主催の研修（対面式またはオンライン式）を受講する [3)]。このほか、大学に設置されている IB 教員養成課程で学ぶという選択肢も用意されている。本稿は、このうちカナダにおける後者の事例に注目し、その制度を明らかにすることを目的とするものである。

カナダでは、IB 教員養成のコースは、ブリティッシュ・コロンビア大学（The University of British Columbia、以下 UBC）に唯一設置されている。より正確に言えば、それは、地元ブリティッシュ・コロンビア州（以下 BC 州）教員免許取得のための課程に付設されるかたちをとっている。カナダにおいて学校教育は各州教育省の管轄事項であり、教員免許も州ごとに発行される。こうした制度下で、BC 州の教員は、原則的に、同州教育省が認定した課程を持つ州内の大学で養成される。

なお、UBC は 2 つのキャンパスに約 6 万人の学部生および大学院生が在籍する [4)]、カナダを代表する研究大学の 1 つである。また、学士課程段階において、世界で最も多くの IBDP 修了生を受け入れる大学の 1 つとしても知られている [5)]。本稿が分析対象とするのは、この UBC の事例である。

また同時に、UBC の地元 BC 州の中等学校での IBDP の展開も研究対象とする。そうする理由は、通常、教員養成課程で取り上げられる内容は、学生が将来教える学校のカリキュラムや諸活動を前提に構成されているからである。なお、本稿では IBDP を設置する学校（以下、IBDP 認定校または DP 認定校）のなかでも公立学校に焦点を当てるが、これは後述する通り、BC 州において私立より公立の DP 認定校が多い事情による。

本稿の構成は次の通りである。まず、BC 州公立学校における IBDP 生の募集から、プログラムの内容、大学との接続までを時系列的に概観する。次に、UBC での IB 教員養成コースに目を移し、州の教員免許取得のための学修も並行して行うカリキュラムの構成を明らかにする。最後に、中等教育段階と教員養成課程での IB 教育の受け入れ方を比較し、大学での IB 教員養成の意義について考えてみたい。

2. BC 州公立学校における IBDP

2. 1 認定校の現況

BC 州内で最初に IBDP の設置が認定されたのは、私立のインターナショナルスクールである。これは 1974 年のことだった。その後、IBDP は公立学校にも拡大し、2000 年代末から 2010 年代初頭には公立･私立ともに認定を受ける学校が増加する（図 1 参照）。2016 年 8 月末時点での BC 州内の IB 認定校数は表 1 に示した通りであり [6]、DP を設置しているのは、公立 18 校、私立 10 校である。IB プログラムの使用言語は、原則的に英語、仏語、西語であるが、BC 州 DP 認定校では、仏語で教育を行う公立学校（以下、仏語学校）の 4 校を除き、すべて英語でプログラムを提供している。

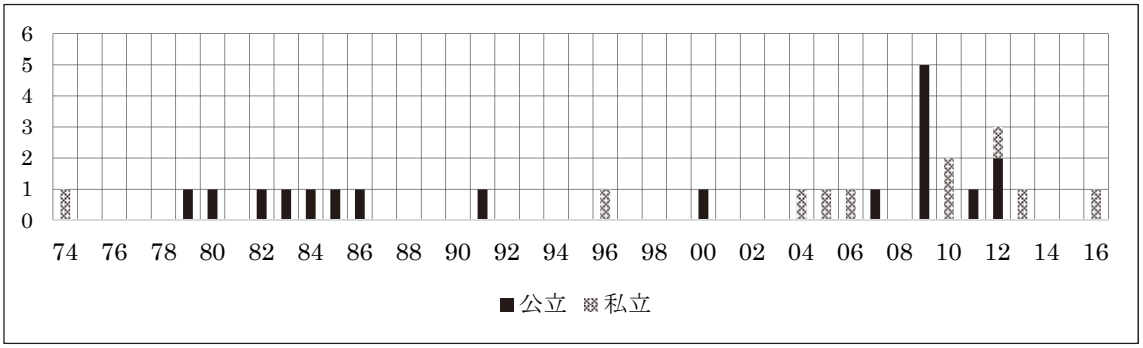


図 1　BC 州における IBDP 認定年別学校数（1974～2016 年）

〈備考〉次のウェブサイトで検索した州内 IBDP 認定校の情報に基づき筆者が作成した。International Baccalaureate Organization, “Find an IB World School.” http://www.ibo.org/programmes/find-an-ib-school/（2016 年 8 月 31 日）

表 1　BC 州における IB 認定校総数（2016 年 8 月末時点）

	公立	私立	合計
プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）のみ	6	1	7
ミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）のみ	7	1	8
PYP、 MYP	0	2	2
DP のみ	15	4	19
MYP、 DP	3	0	3
PYP、 MYP、 DP	0	6	6
合計	31	14	45

〈備考〉次のウェブサイトで検索した州内 IBDP 認定校の情報に基づき筆者が作成した。International Baccalaureate Organization, “Find an IB World School.”（http://www.ibo.org/programmes/find-an-ib-school/ 2016 年 8 月 31 日）

IBO が定める各プログラムの対象年齢は、PYP が 3～12 歳、MYP が 11～16 歳、DP が 16～19 歳。

DP 認定校は、ほとんどの場合、州内の人口が集中する地区に位置する。仏語学校 [7]以

外の公立学校は、州の 59 からなる各地区に設置された教育当局の管轄下にあるが、英語の DP を提供する 14 の学校は、このうち 13 地区にあり、概ね 1 つの地区に 1 校ずつ所在するかたちとなっている。こうした地区は、州人口の半分以上が居住するバンクーバー周辺エリアに集中している。

2. 2 IBDP 履修に対する認定校の理解

BC 州の公立 IBDP 認定校では、IBO が対象年齢を 16～19 歳と設定するこのプログラムを、中等教育段階（第 8～12 学年）の最後の 2 年間、すなわち第 11・12 学年の生徒に実施している。IB ディプロマの取得を希望する生徒は、校内での所定の手続きを経て、IB 科目を履修する。また、ディプロマの取得を目的としない IB 科目の履修も可能である。

IB ディプロマを取得しようとする生徒は、同時に、州の中等教育修了ディプロマも取得する。これは、DP で履修する科目を、州ディプロマ取得に必要な教科目に読み替えることで可能になっている。

各認定校は、生徒が 10 年生の段階で IB 科目の履修希望者を募り、応募者の適性のチェックを経て履修者を決定する。以下、各校での履修者を決める過程を手がかりに、認定校の IBDP の捉え方の一端を明らかにしていきたい。

通常、IB 科目の履修希望者を募る際、各校はこのプログラムの詳細を、生徒と保護者に説明する機会を持つ。そこでは、IB 科目を履修し、ディプロマを取得するメリットなどが紹介される。たとえば 1984 年に認定校となったリッチモンド中等学校（Richmond Secondary School、以下 RM 校）が生徒を対象に 2016 年 1 月に行った説明会の資料には、以下のような記述が見られる。

・IBDP は目標設定、時間管理、分析、優れた研究の遂行、論文作成、口頭コミュニケーションの各スキルの獲得を要求しています。これらのスキルは、大学と雇用者が重視するものです。
・IBDP への参加は、その生徒が厳しい学問的挑戦を受け入れているということを意味します。その挑戦は、大学と雇用者が、生徒の将来の成功を予測する要因として認識しているものです。
・IBDP の生徒が論文作成および研究スキルを習得したということは、IB 試験と、IB 科目の「課題論文（extended essay）」および「知の理論（theory of knowledge、 以下 TOK）」（本章第 2 節参照――引用者）の論文の外部試験官によるモデレーション（評価の適正化）によって証明されます。
・IB 科目の「創造性、活動、奉仕（creativity, action, service、 以下 CAS）」（本章第 2 節参照――引用者）は、生徒が個々の創造性を生かした活動や身体活動、コミュニティでの奉仕活動を行っていることの証明となります。
・大学の入学者選考担当部局では、IBDP 修了生が高い質の学力を備えていることが知られています。
・IBDP は生徒に将来直面する高度な課題への準備をさせます。アメリカとカナダの大学において、IB ディプロマ所持者の初年次の歩留まり率は最も高いと言われています。[8)]

ここからは、認定校の教員が、IBDP を、大学での学修への適応と、卒業後の職業生活での成功へと生徒を導くプログラムとして理解していることがわかる。なお、ここで言及されていない IB 科目履修の利点には、その最終スコアが各大学の規定の点数に達していれば 1 年次向け科目の単位として認定されるということがある[9]。

上記のようなプログラムの説明会資料に記載される内容は、IBO が提供する様々なリソースに依拠したものである。たとえば IBO のウェブサイトに掲載されている大学関係者向けのページには、IB プログラムで養われるものとして、「時間管理スキルと強力な自発性」「市民としての社会参加への強い関心」「卓越した学力」「優れた研究および論文作成スキル」「批判的思考力」「国際的な視野」の 6 点が列挙されている[10]。

また、別の認定校では、IBDP の生徒に必要と考えられる資質をあらかじめ提示することで、このプログラムへの適性を自ら判断するよう促す例が見られる。2011 年に認定されたシークァム中等学校（Seaquam Secondary School、以下 SQ 校）が、保護者を対象とした説明会の資料のなかで挙げる資質は、以下の 8 点である。

・口頭発表や論文作成において優れたコミュニケーション能力を発揮できる。
・一貫して高い出席率を保っている。
・授業に高いレベルで参加している。
・学校行事に関わる課外活動を進んで行う。
・時間管理能力がある。
・自由に使える時間のなかで、（学習に対する――引用者）追加の支援を必要に応じて進んで求める。
・校外での活動に関わっている。
・地域社会と国際社会の両方の時事問題に対する意識が高く、関心もある。[11]

これらの資質のリストについて興味深いのは、先に引用した IBDP を通して育まれる能力とされている事柄との重複が見られるということである。ここには、そこで獲得することが予定される能力を、あらかじめ一定程度備えた生徒の方が、指導がしやすいという事情がはたらいているものと推察される。

この SQ 校は、生徒が IBDP への登録を申請する際、直近の学期の成績通知表、作文（与えられたテーマから 1 つを選択して 250～500 語程度で作成）、生徒と保護者対象の記入済みの質問票の提出を求めている。このうち生徒への質問票は、以下の 3 つの質問に対し 6 行程度で答えさせる形式となっている。いずれの設問からも、学校側が掲げる上記の IB ディプロマ取得希望者の資質を確認しようとする意図がうかがえる。

1. あなたが自発性を見せるのはどのようなときか、あるいはどのような状況に置かれたときか、例を挙げて述べなさい。
2. 自分の学力を最も高いレベルに上げるためのあなた自身の取り組みについて例を挙げて述べなさい。
3. コミュニティでの奉仕活動への関わりについて要約して述べなさい。[12]

他方、保護者への質問票では、以下の計 7 項目のうち記述式の 2 項目を除いた質問に対し、「1＝あてはまらない」から「4＝とてもあてはまる」までの 4 段階で回答するよう求めている。

IB プログラムに対する考え

・あなたのお子さんは速いペースで進むプログラムをうまく乗り切ることができると思いますか。
・あなたのお子さんが楽しく授業を受け、また能力の及ぶ限り勉強した結果、A より下の評定を得たとします。あなたはこの結果を受け入れることができますか。

管理スキル

・あなたのお子さんは、通常、いったん始めたことは最後までやり遂げますか。
・あなたのお子さんの学習スキルはたしかなものですか。
・あなたのお子さんはストレスにうまく対処していますか。
・ストレスをどのように処理していますか。（記述式）

プログラムへの関与

・もしあなたのお子さんが夜に 3 時間かかる宿題をすることがあっても、あなたはこのプログラムへのお子さんの取り組みを快く支えますか。
・すべての生徒が諸活動の健全なバランスを必要としていると認識した上で、お子さんがすべての教科および教科外活動の要求を満たすことができるように、時間管理の点で快く手助けしますか。
・あなたのお子さんはどのような教科外活動の領域に参加していますか。あるいはこうしたものへの関心を示していますか。（記述式）[13)]

この質問票からは、生徒の自己評価に頼るだけでなく、保護者からの情報も得ることで、生徒の資質を慎重に見極めようと努めていることがわかる。また、それだけでなく、保護者には、IBDP の負担の大きさに対する理解と、生徒へのサポートを求めており、保護者も生徒と同様、評価の対象になっていると見ることもできる。このように保護者に生徒の資質を確認するプロセスを踏む認定校の例は、他にも少数ながら確認できる。

適性のチェックを経て第 11 学年の新学期（9 月）を迎えると、生徒は IB 科目の履修を始める。IB 科目の履修者が同一学年の全体に占める割合は、認定校によって異なる。BC 州教育省がウェブサイトで公開している学校ごとの生徒数および科目別クラス規模のデータ[14)]をもとに推計すると、10～20%の学校が大勢を占めるが、なかには 25%前後や 40%以上にまで達する認定校も存在する。

なお、BC 州の公立学校で IBDP を履修する生徒の保護者には、通常の州カリキュラムの履修とは異なり、金銭的な負担が発生する。それは、IB 試験の受験料や IBO が提供するオンラインシステムの使用料などを含むものであり、たとえば SQ 校の徴収額は 1 人あたり総額 1,355 ドル（約 10 万 8,000 円）であった[15)]。学校は、こうした費用負担を求める立場からも、IB プログラムの特質について、生徒と保護者に丁寧に説明をすることを心がけていると見ることができよう。

2. 3 中等学校の 2 つのプログラム

2. 3. 1 州中等教育修了ディプロマの取得条件

先に述べた通り、公立学校において IBDP の履修を選択する生徒は、IB ディプロマだけでなく、州の中等教育修了ディプロマも取得する [16]。後者のディプロマのためには、第 10～12 学年のあいだに表 2 に示した教科を履修し、合計 80 単位を修得しなければならない。なお、これまで必修教科のうち第 10 学年「言語」[17]「数学」「理科」、第 11 または 12 学年「社会科」、第 12 学年「言語」の最終成績の一部には、州が実施する多肢選択式と記述式からなる試験の結果が反映されてきた [18]。

IBDP は第 11・12 学年で実施されるため、この間の履修が求められている言語、数学、社会科、理科の各教科については、対応する IB 科目で読み替えることになる。また、第 10～12 学年の必修教科「卒業後の生活への移行」[19]については、IB 科目の 1 つの CAS で一部代替することを認める学校もある。

表 2　BC 州中等教育修了ディプロマ取得に必要な教科と単位数

合計 80 単位	必修教科 （各 4 単位、合計 52 単位）	言語（第 10～12 学年の各学年）、数学（第 10 学年と第 11 または 12 学年）、社会科（第 10 学年と第 11 または 12 学年）、理科（第 10 学年と第 11 または 12 学年）、体育（第 10 学年）、芸術・応用技術（第 10 または 11 または 12 学年）、プランニング（第 10 学年）、卒業後の生活への移行（第 10～12 学年）
	選択必修教科（28 単位）	第 10～12 学年の上記以外の教科

〈備考〉次の資料の記載に基づき筆者が作成した。Ministry of Education, n.d., *Grad Planner 2016/17*, pp. 4–7. http://www2.gov.bc.ca/assets/gov/education/kindergarten-to-grade-12/support/grad_planner.pdf（2016 年 9 月 9 日）

4 単位は概ね年間 120 時間の授業に相当。80 単位中 16 単位はかならず第 12 学年用教科で修得する。

2. 3. 2 IBDP から大学へ

2. 3. 2. 1 教科グループの科目

IB 科目は、各認定校において、後述するコア科目を除き、IBO が設定する多様な科目のなかから、人的リソースや生徒の実情に合わせて選び出され、開設されている。生徒はそこから、IBO が定める決まりに従いつつ、自らの進路に合わせて科目を選択する。その決まりとは、まず、6 つの教科グループ「言語と文学」「言語習得」「個人と社会」「理科」「数学」「芸術」から 1 科目ずつ、合計 6 科目選択するというものである。ただし、「芸術」の科目を履修せず、その分を「個人と社会」または「理科」の科目に代替することも可能である [20]。

また、ほとんどの科目に上級レベル（higher level、 以下 HL）と標準レベル（standard level、 以下 SL）という、授業時間による区別が設けられているが、生徒には 6 科目のうち各科目 240 時間の HL を最低 3 科目、残りを 150 時間の SL 科目として履修することが求められている [21]。同じ科目でも HL は SL より多くの内容を学ぶことになるため、どの科目を HL として選択するかは、大学での生徒の希望する専攻と深く関わってくる。認定校のなかには、次頁表 3 にまとめたように、大学での専攻に応じた科目選択例を複数提示したり（RM 校）、「自然科学」「生命科学」「人文系」に応じた科目選択パターンからいず

れかを生徒に選ばせるところ（セミアムー中等学校（Semiahmoo Secondary School)、以下 SM 校、1980 年認定）がある。

表 3　進路別科目選択の例

	RM 校進路別科目選択例（2016/17 年度以降）			SM 校進路別科目選択パターン（2017/18 年度以降）		
	工学	商学	文学	自然科学	生命科学	人文系
1 言語と文学	英語（文学）HL	英語（文学）HL	英語（文学）HL	英語 SL	英語 SL または HL	英語 SL または HL
2 言語習得	仏語 SL	仏語 HL	日本語 SL	仏語 SL または西語 SL	仏語 SL または西語 SL	仏語 SL または西語 SL
3 個人と社会	情報テクノロジーとグローバル社会 SL	ビジネス SL と地理 SL	歴史 HL	歴史 SL または地理 SL	歴史 SL または HL、または地理 SL または HL	歴史 SL または HL、地理 SL または HL
4 理科	物理 SL と化学 HL	物理 HL	化学 SL	物理 HL と化学 HL	生物 HL と化学 HL	生物 SL または HL
5 数学	数学 HL	数学 HL	数学 SL	数学 HL（推奨）または SL	数学 SL または HL	数学 SL（推奨）
6 芸術			演劇 HL			美術 HL（有能な生徒に限る）
IB コア	課題論文、TOK（知の理論）、CAS（創造性・活動・奉仕）					

〈備考〉次の資料に基づき筆者が作成した。

RM 校: 注 8 のウェブサイト掲載の資料

SM 校: Semiahmoo Secondary School, “International Baccalaureate Diploma Programme, Diplo-ma Application Package” https://www.surreyschools.ca/schools/semi/NewsEvents/Newsletters/Documents/2017-2019%20IB%20Diploma%20%20Application%20Package.pdf (2016 年 9 月 9 日)

認定校は、各科目の教育内容を、IBO が科目ごとに作成する「指導の手引き（subject guide)」等が提示するものから、一定の決まりに従って選択・構成する。たとえば、「言語と文学」の「英語（文学）HL」であれば、担当教員は IBO が指定する作品リストのなかから、授業で取り上げるものを選択しなければならない[22]。

各科目の評価は、内部評価と外部評価の 2 種類から構成されている。内部評価の対象は授業内の口頭発表や調査研究のレポート、美術の作品などである。各学校の教員は、これらを IBO が定める評価規準に従って評価する。各教員の評価の妥当性については、外部試験官が採点例に基づき採点傾向を見極め、調整を行う[23]。

他方、外部評価は、芸術以外の科目は、最終学年の 5 月に実施される IB 試験で行われる[24]。このほか、試験時間外に作成した課題を外部評価者に提出することが求められる科

目もある。評価全体に占める外部評価の割合は、70～80%と科目によって異なる[25]。

外部評価のメインであるIB試験は、各科目について試験時間は概ね合計3～5時間とされている[26]。IBOのウェブサイトに掲載されている一部の科目の過去の試験問題（2004～06年実施）からは、すべて記述式がとられていることが確認できる[27]。

各科目の内部および外部評価の結果は、最終的には1から7までの1点刻みのスコアに換算される。

2. 3. 2. 2 IBコア科目

IB科目には上記のほかに、コア科目と呼ばれる「課題論文」「TOK（知の理論）」「CAS（創造性・活動・奉仕）」がある。以下、IBOの資料に基づき、これらの科目の概要を述べていきたい。

課題論文の内容は、名称の通り、論文を作成することである。この科目の一連の流れは、まず生徒が教科グループの6科目のうち1つの学習内容からテーマを絞り、それについての研究論文を教員の指導のもと4,000語程度で執筆し、最後に教員の口頭試問を受けるというものである。この科目の目的は、次の3つの機会「知的なイニシアティブと厳密さをもって独立して研究に取り組むこと」「研究、思考、自己管理、コミュニケーションの各スキルを伸ばすこと」「研究および執筆過程を通して学習内容を振り返ること」を生徒に与えることだという[28]。論文のテーマ例には、たとえば「排気管の長さとそれが出す音の周波数のあいだにはどのような関係があるか」「フリードリヒ・デュレンマット作の戯曲『貴婦人の訪問』における色彩の利用は、作者のメッセージを伝える上でどのような効果を持っているか」といったものがある[29]。なお、評価は外部試験官が行う。

次にTOKは、独特な内容を持つ科目である。この科目では、生徒は特定の知識について学ぶのではなく、批判的思考そのものや、人が何かを「知る」ということの過程について検討することが課題とされている。そのために生徒には、知識の性質について振り返ること、複数の知識の領域（数学、自然科学、人間科学、芸術、歴史、倫理、宗教的知識の体系、土着の知識の体系）を互いに関連づけること、自分のパースペクティブと、自らと知識を共有している多様な集団のパースペクティブの両方に気づくこと、といった機会が与えられる[30]。

学校では100時間の授業を行い、そこで実施される個人または最大3名からなるグループによる発表とその計画書が内部評価の対象になる。他方、外部評価の対象は、6つの設問から1つを選んで執筆する1,600語程度の小論文である。IBOは設問の例として、「知識を獲得することは、バイアスや（情報の――引用者）選択といった問題があっても可能だという主張を、歴史と、最低1つの別の知識の領域を使って検討せよ」「見解の相違というのは、自然科学あるいは人間科学における知識の追求をどのような方法で促すことになるだろうか」を挙げている[31]。

最後のCASは、名称の「創造性」「活動」「奉仕」の3要素から構成される科目である。この科目はBC州カリキュラムの必修教科「卒業後の生活への移行」の内容と部分的に重なっている。そのため、先に述べたように、州のディプロマ取得の際にCASが「卒業後の生活への移行」に読み替えられることがある。

CASを通して目指されるのは、体験活動を通した個人の能力および人間関係面での発達、

社会的および市民的な発達である。こうした活動は、IBDP での学業上のプレッシャーとバランスをとるのに役立つものだという [32]。こうした意義づけもあり、CAS の評価は、他の科目とは異なり、点数化されることはない。

生徒はこの 3 つの構成要素のうち最低 1 つに関わるプロジェクトを実施し、その証拠としてポートフォリオを作成する。構成要素の具体的な活動の例には、「創造性」はグループによる壁画制作、「活動」はスポーツチームの結成とトレーニングおよび試合の実施、「奉仕」は支援を必要とする人たちに対する学習支援活動、3 つすべてに関わるものでは地域の高齢者施設でのダンス公演の開催、がある [33]。

以上のコア科目のうち、課題論文と TOK には、それぞれ A から E の評価が与えられ、最終的にはその評価の組み合わせを点数に換算し、あわせて最高 3 点が加点される。このとき 0 点で加点されなかった場合でも、ディプロマ取得自体には影響しない。しかし、どちらかの科目で E 評価を得た場合、ディプロマは取得できない [34]。

以上が IB 科目の学習内容と評価方法の概要であるが、生徒が IB 試験を経て手にする最終的なスコアの満点は 45 点であり、そのうち 24 点が獲得できればディプロマが授与される [35]。

2. 3. 2. 3 大学への出願

BC 州の大学が入学者選考の材料とするのは、一般的に、中等教育段階最終学年での学業成績（IBDP 履修者の場合は IB のスコア）と、出願者が自らの人物像や大学での抱負などをまとめた作文である。学業成績に関しては、たとえば、世界で IBDP 生を多く受け入れる大学の 1 つとされる UBC では、出願の締め切りを 5 月の IB 試験より前に設定しているため、まず認定校で算出される出願者の予測スコアに基づいて暫定的な合否判定を行う。そして最終スコアの発表後、その予測スコアとのマイナス方向の開きが、大学が設定する基準内に収まっている場合、正式に合否が出願者に通知される [36]。

IBDP 生に対する出願要件は、大学や学部および専攻により様々である。UBC の要件は、学部や専攻にかかわらず、大学が設定する英語力の基準を満たしていること、IB スコアの合計が最低 24 点で、そのうち HL 科目を 3 つ含み、かつ課題論文と TOK に加点があることなどがある [37]。また、学部および専攻別の要件は、特定の IB 科目を履修したかどうかということであり、その科目毎のスコアは問われない。たとえば、工学部への出願者には数学、物理、化学（いずれも SL または HL）を履修していたことが要求される。他方、人文・社会科学系の専攻からなる文学部は、上記の共通の要件以外は課していない [38]。なお、UBC は入学に最低必要な中等教育段階での成績の目安を公表しているが、IBDP の場合、多くの専攻で 29～32 点以上と設定されている [39]。

2.4 小括

以上のように、BC 州の公立の一部の中等学校では、州カリキュラムに基づいた通常の課程に加えて IBDP が設置され、そのプログラムに適応できると判断された生徒が IB 科目を履修し、IB ディプロマを取得するというシステムがとられている。また DP 生は同時に、科目の読み替えを通して州の中等教育修了ディプロマも取得する。このように 2 つのディプロマの取得が可能となるのは、IBDP と州カリキュラムの内容のあいだに大きな隔

たりがないことが前提になっているものと考えられる。とはいえ、TOK のような高いレベルの思考と表現力が要求される科目、または課題論文のような学術的な形式を踏まえた論理的な長い文章を作成する機会を、州カリキュラムのなかに見いだすのは難しい[40]。こうした違いが、生徒の適性判断を不可欠のものにしていると考えられよう。

3. IB 教員の養成

3. 1 IB 教員認定システムの概要

BC 州内の学校に勤務する教員には、州教育省が発行する教員免許の所持が義務づけられている[41]。このうちの IB 認定校でそのプログラムの科目を担当する教員は、州の教員免許の所持に加えて、IBO の教員認定システムのもとで IB 教員として養成される必要がある。その手段の 1 つは、本稿冒頭で述べた通り、IBO 主催の数日間の研修であり、もう 1 つは、IBO が認定し大学等が設置する養成課程である。

後者の課程は段階別に 2 つに分かれている[42]。最初の段階は、教員志望学生または現職教員が履修し、修了後に Certificate in teaching and learning という認定書を取得する。他方、次の段階は修士課程として設置されるものであり、そこでは IB プログラムを教えた経験のある現職教員、または最初の課程の修了者が、学修と研究を経て Advanced certificate in teaching and learning research という上級の認定書を取得する。本稿では、このうち最初の課程に焦点を絞る。

3. 2 UBC 教員養成課程のなかの IB コース

3. 2. 1 コースの概要

BC 州には教育省認定の教員養成課程を持つ大学が 8 校あり、本稿が取り上げる UBC はそのうちの 1 校である。教育学部・研究科はバンクーバーとオカナガン（州東部ケロウナ市）の両キャンパスに設置され、それぞれで教員養成と大学院教育が行われている。

カナダで唯一の IB 教員養成課程を設置しているのは、バンクーバー・キャンパスの教育学部である。IB コースは、既存の教員養成課程のなかに位置づけられており、同コースの修了生は、州教員免許と IB 教員の認定書の両方を取得するという仕組みがとられている。なお、BC 州内の大学の教員養成制度には、学士課程段階での 5 年制と、学士課程修了後の 1～2 年制の 2 種類があるが、バンクーバー・キャンパスの教育学部の養成期間は、一部のデュアルディグリー・プログラムを除き、学士課程修了後の 12 ヶ月とされている。そして課程修了者には、大学から Bachelor of Education という学士学位が授与される。なお、IB コースの授業料は、通常の課程より必要単位数が 1～3 多く、その分若干高い[43]。

UBC の IB コースでの教員養成は、州教員免許を取得するためのカリキュラムを基礎にしている。具体的には、PYP のコースには幼稚園から第 7 学年までの初等教育の教員養成、MYP と DP のコースには第 8～12 学年の中等教育の教員養成の枠組みが用いられる。他方、IB プログラムの内容は、各 IB コースの授業および教育実習で扱われる。以下、IB コースのうち、DP のコースに注目し、出願要件と、カリキュラムの構成およびその内容を確認していきたい。

まず出願要件として、IB コースに特別の条件は課されていない。このコースを紹介する大学のウェブサイトには、出願者には IB 教育を受けた経験があるのが望ましいものの、

それは要件ではないと明記されている[44]。

DP のコースを希望する者は、まず中等教育専攻に出願しなければならない。その出願要件には、まず学士課程を修了していることと、中等教育段階の年齢層（13～17 歳）の集団を対象にした職業またはボランティア経験（最低 75 時間分）を有することがある[45]。また、学士課程で英文学・英作文科目（仏語教員志望者は仏文学・仏作文科目）を 6 単位修得していなければならない。さらに、学士課程での専攻と一致する 1 ないし 2 の専門教科を申告し、UBC が指定する履修科目の点数の平均が 65%以上であることも求められる[46]。

IB コースへの登録申請は、入学許可後に行うこととなっている。大学ウェブサイトの記載によれば、定員規模が小さいことから、志望者の専門教科と実習校の所在地の希望に基づいて受け入れの可否を決定するとされている[47]。

12 ヶ月にわたる養成課程を終えると、学生は州教員免許と IB 教員認定書の取得手続きに入る。教員就職に関しては、毎年 1 月に学内に各教育当局や私立学校等の人事担当者を集めて開催される説明会で、学生は採用や勤務条件の情報を収集する。ただ、IB コースの責任者によれば、カナダでは多くの新人教員は修了後ただちに正規の教員として特定の学校に配属されるのではなく、各教育当局がプールする正規教員の代替教員（teachers-teaching-on-call または teacher-on-call）の身分からキャリアをスタートさせるため、IB 教員になった卒業生の数は把握できていないとのことである[48]。

3. 2. 2 カリキュラム

3. 2. 2. 1 科目構成

IBO は IB 教員養成のモデルを示しているが、それによれば、学生が学修する領域には「カリキュラム」「指導方法」「評価方法」「職能成長の方法」の 4 つがある[49]。UBC 教員養成課程の IB コースのカリキュラムには、これらの領域が複数の科目に横断的に位置づけられている。

IB コースの学生が履修する科目には、図 2 に示したように、大きく分けて講義・演習科目と実習科目がある。

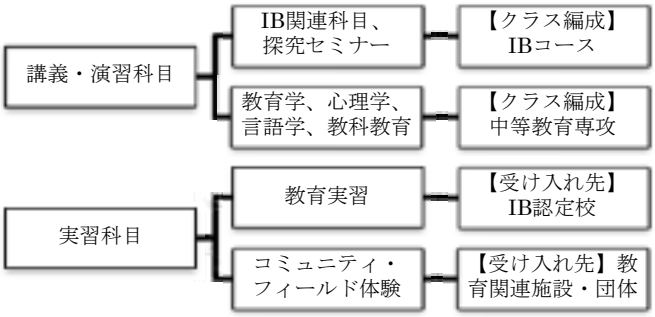


図 2　IB コース（DP）の科目構成

講義・演習科目は、さらに、クラス編成の観点から 2 つに分類可能である。1 つは IB コースの学生を対象に開設される科目であり、もう 1 つは他の中等教育専攻の学生とともに受講する、教育学、心理学、言語学、教科教育の科目である。他方、実習科目には、主として IB 認定校で実施する教育実習と、地域社会の教育関連施設や団体が受け入れ先と

なる体験実習がある。こうした科目から構成される IB コースのカリキュラムは、表 4 に示した通りである。

表 4　IB コース（DP）の科目開講スケジュール（2015/16 年度）

冬学期 1　(2015 年 9 月 8 日～12 月 18 日)		
探究セミナーI	演習	3（単位）
人間発達・学習・多様性	心理学	3
教育・学校・社会機関	教育学	3
教室のディスコースと英語学習者	言語学	3
カリキュラム I　（専門の教科教育法を選択）	教科教育	3
カリキュラム II　（専門の教科教育法を選択）	教科教育	3
オリエンテーション教育実習（10 月以降週 1 回訪問、11/2～13 集中実習）	実習	2
冬学期 2　(2016 年 1 月 4 日～5 月 13 日)		
探究セミナーII	演習	3
評価と教室での学習	心理学	3
支援する学校と教室環境づくり	心理学	1
拡大教育実習（2/1～4/22、実質 10 週間）	実習	12
コミュニティ・フィールド体験（4/25～5/13、3 週間）	実習	1
夏学期 1　(2016 年 5 月 16 日～6 月 24 日)		
教育・知識・カリキュラム	教育学	1
倫理と教育	教育学	1
カナダの先住民教育	教育学	3
リテラシー実践と評価	言語学	3
夏学期 2　(2016 年 7 月 4 日～8 月 12 日)		
探究セミナーIII	演習	3
カリキュラム III　（専門の教科教育法を選択）	教科教育	3
通常学級における発達と特殊性	心理学	3
その他		
IB 概論（冬学期 1 開始前、4 日間）および IB セミナー（9～1 月、週 1 回）	IB	4
IB 教科セミナー（冬学期 1、2 日間）	IB	1
合　計		62

〈備考〉次の資料に基づいて筆者が作成した。Teacher Education Office, Faculty of Education, The University of British Columbia, “Course Schedule & Outlines.” http://teach.educ.ubc.ca/students/courses/201516-schedules-outlines/secondary/（2015 年 11 月 9 日）；Teacher Education Office, Faculty of Education, The University of British Columbia, “2015/16 Secondary Academic Calendar.” http://teach.educ.ubc.ca/students/calendar/2015-16/secondary/（2015 年 11 月 9 日）

1 単位は 12 時間の授業相当。ゴシック表記の科目は IB コース（DP）の単位で授業が実施されるが、IB 概論の一部は PYP および MYP コースの学生とともに受講する。

以下、上記の科目のなかでも、IB 教育に関連する科目を中心に、その学修内容をシラバスに基づいて確認していきたい。

講義・演習科目のうち、IB コースの学生のみでクラスが編成される科目には、①9 月の新学期開始前の 4 日間に集中開講される「IB 概論」、②9～1 月に週 1 回開講される「IB セミナー」、③冬学期 1 のあいだの 2 日間に集中開講される「IB 教科セミナー」、④3 学期にわたって開講される「探究セミナー」がある。①～③は IB コースに特有の科目であるのに対し、④は他の中等教育専攻の学生もコース単位で受講する科目である。このうち、ここでは①「IB 概論」、②「IB セミナー」、④「探究セミナー」の学修内容を取り上げていく。なお、①～④の科目は、UBC の教育学部が雇用する、現職または退職した学校の教員（実務家教員）のうち、IB 認定校で勤務した経験を持つ者が担当している[50]。

3. 2. 2. 2 IB 概論・IB セミナー

「IB 概論」「IB セミナー」の主な学修内容は、シラバスによれば以下の通りである。

- IB の 3 つのプログラム（PYP、MYP、DP）と相互関連性
- IB の使命と学習者像
- IBDP の概要
- グローバルな文脈のなかの IBDP
- 概念を基礎にした学習
- 探究を通した指導と学習
- 学習と指導の方法
- 学習のための評価
- IBDP コア科目（課題論文、TOK、CAS）
- 各科目の指導の手引き
- 単元の計画
- 差別化と個別化
- 学問的誠実性[51]

上記の項目のうち、「IB の使命と学習者像」[52]はもちろんのこと、「グローバルな文脈」「概念」「探究」「評価」「差別化」といった用語の理解は、IBDP を担当する教員には欠かせないものと考えられる。というのも、これらの用語は、IBO が指導方法の原理として掲げている次の項目に含まれているからである。

1. 探究を基盤とした指導
2. 概念理解に重点を置いた指導
3. 地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導
4. 効果的なチームワークと協働を重視する指導
5. すべての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
6. 評価（形成的評価および総括的評価）を取り入れた指導[53]

「IB 概論」「IB セミナー」で学生は、主として次の 4 つの課題――授業の学修成果を振り返る記録の作成、IB 教育に関する研究発表、教育実習に向けた単元計画の作成、特定の IB 科目で生徒が取り組む課題の作成とその評価の標準化（教科別グループによる作業）――に取り組む[54]。そして、授業への出席・参加状況とあわせて、これらが科目の評価の対象となる。

3. 2. 2. 3 探究セミナー

実務家教員が担当し、IB コース単位で行われるもう 1 つの科目「探究セミナー」には、中等教育専攻に共通のシラバスが用意されている（概要は次頁表 5 参照）。それによれば、冬学期に開設されている「探究セミナーI、II」では、「探究プロジェクト」として、各自が教育実践と関係のあるテーマを設定し、文献講読や授業での議論などを経て研究成果を発表する。その後 10 週間の教育実習を経て、夏学期の「探究セミナーIII」で、養成課程全体の総括として電子ポートフォリオを作成することが課題とされている。

科目名にある「探究（inquiry）」は、UBC の教育学部が手がける教員養成および現職教育において重視される方法である。同学部ウェブサイトの教員養成と現職教育のミッションを説明するページには、次のような記述がある。

> 体系的な探究は、カリキュラムと教育方法に関する判断を（教員自らが――引用者）観察し、分析するためのツールを提供するがゆえに重要である。UBC のプログラムは、教員志望者に、職業的な探究に対する強い意識と、教授・学習について理解する際の研究の重要性に対する認識を生じさせるよう設計されたものである。[55]

探究は、先述の通り IB プログラムにおいても重視される指導および学習方法である。しかし探究は、それだけでなく、ニューファンドランド・ラブラドール州メモリアル大学のグッドナウ（Karen Goodnough）や BC 州サイモン・フレーザー大学のブロック（Shawn Bullock）らによれば、カナダやアメリカなどの教員養成においても活用されてきた教育方法である[56]。その目的は、学生が、講義で学んだ諸理論と学校観察や実習で体験する実践を統合的に理解したり、自らの学修と教育実践に対する批判的な振り返りをしたり、学生も知識の利用者であると同時にその創造者だという見方ができるようになることなどにあるという[57]。

「探究セミナーI」のシラバスには、探究について、次のような説明が掲載されている。

> 探究は、教員に求められる日々の省察を超えたものであり、専門家が何をどのようにするかということとその根拠を探る、思慮深く、持続的で、体系的なプロセスとして理解されている。そのプロセスには、探究を同僚と共有する専門家の存在が含まれる。教員の探究という概念は、教員個人、あるいは教員集団の存在を条件としており、それは、問いと振り返りと行動というサイクルのなかに位置づいている。教員は実践を詳細かつ批判的に検討し、様々な観点から問題・課題に取り組み、別の探究のあり方についてもよく考え、新しい実践を試しては修正し、その結果を評価する。そして、探究の過程から浮かび上がった成果や反応、可能性に基づき、また新たなサイクルが動き出すのである。[58]

表 5　探究セミナーの構成

I	目的 1)　教職を、探究、判断、複数の他者――生徒、保護者、同僚、研究者コミュニティ――と関わることが求められる道徳的かつ知的な活動として理解する。 2)　カリキュラム、指導、学習について理解する際の研究の重要性を理解する。 3)　教育を学ぶ学生として、自分自身の探究を実行する。 内容 ・文献講読とディスカッション。 ・探究プロジェクトの計画を作成する。テーマは学生が自らの関心に応じて選択する。
II	目的 1)　探究セミナーI で作成した計画に基づいて、教員としての探究を形にする。 2)　探究プロジェクトについて発表し、クラスの仲間と共有する。 3)　探究する過程で生じる問いやプロジェクトに関連する理論的・実践的なパースペクティブと、教員として取り組もうとする実践のあいだの関係を探る。 内容 ・探究プロジェクトを完成させ、他の学生と共有し、フィードバックを得たり与えたりする。 ・ポスターセッション、ミニカンファレンス、ラウンドテーブルなどの形式で成果を発表する。 ・自分の探究プロジェクトと、取り組もうとする教育実践を結びつける。
III	目的 1)　教職、自己と他者、そしてこれらのあいだにある緊張関係に関与する意識と責任感を育てる。 2)　学校制度と教育のあいだの緊張関係を認識し、（発展途上の知識と実践に照らして）その問題に取り組む意志を持つ。 3)　よく考えて実践に関わり、批判的な問いを立て、個人と集団しての教職の未来についての疑問を「声に出す」能力を伸ばす。 内容 ・文献講読とディスカッション。 ・電子ポートフォリオの作成、見直し、発表、検討が中心。 ・電子ポートフォリオは、次の 4 つの問いをベースに、物語を編むように作成する。「自分はどこから来たのか」（自伝）、「自分にとっての教育とは何か」（哲学）、「今後どのように実践していくか」（教授学）、「教員として今後どのように成長し続けていくか」（探究）。

〈備考〉次の探究セミナーI、 II、 III のシラバスに基づき筆者が作成した。

I: 注 51 のウェブサイト掲載の資料

II: “EDUC 451 – Inquiry seminar II, secondary.” http://teach.educ.ubc.ca/files/2015/09/EDUC-451-Secondary.pdf (2015 年 12 月 7 日)

III: “Inquiry seminar III (summer).” http://teach.educ.ubc.ca/files/2015/01/EDUC-452.pdf (2015 年 12 月 7 日)

以上は、養成期間中というより、教職に就いた後に実践することが期待される探究のモデルである。そのため、学生は、探究のテーマとして、想定される自らが今後取り組む教育実践、あるいは直面する問題などを設定する。そこで適用されるアプローチは、学生が

教員養成課程に入る前の学士課程で馴染んだ学術研究とは異なる、「教員の探究」という当事者による行為の振り返りを基礎とする新しい方法となる。この科目の課題を IB コースに当てはめると、学生は IB プログラムに関わる事柄をテーマに、将来 IB 教員になるという立場でこの科目に取り組むことが推察される。

3. 2. 2. 4 実習科目

教育実習は、表に示した通り、1 学期目の「オリエンテーション教育実習」と 2 学期目の「拡大教育実習」の 2 回に分けて行われる。

前者の「オリエンテーション教育実習」は、中等教育専攻共通のシラバスによれば、3 つの段階が設定されている [59]。最初の段階で学生は、複数の教育委員会管轄下の学校を 1 日単位で複数回訪問し、授業の様子を観察する。その後、2 学期目の「拡大教育実習」の受け入れ先となる学校で 2 週間の集中実習に移り、授業観察にとどまらず、様々な教育活動に参加し、最終的には授業を担当する。学生はこの段階から、受け入れ先の指導教員と「拡大教育実習」に向けた準備を始める。IB コースの場合、バンクーバー・キャンパスの近隣の IB 認定校がこの段階以降と「拡大教育実習」の受け入れ先となる。最後の段階は、2 週間の実習を行った学校に週 1 回の頻度で訪問し、それまでの活動を続ける。

後者の「拡大教育実習」は 2 学期目に 10 週間かけて行われる。この間学生は、授業時間を徐々に増やしていき、指導教員の全授業時間の 8 割を 4 週間かけて担当するところまで到達することが求められている [60]。

「拡大教育実習」を終えた後の 3 週間、学生は学校外での「コミュニティ・フィールド体験」に取り組む。この科目では、原則的に、博物館、科学館、美術館、野外活動施設、移民支援団体といった教育に関連する施設や団体でボランティア活動に従事することが求められている [61]。ただし、成績が一定の水準に達していることと費用の自己負担を条件に、州内の僻地または国外での教育活動に参加することも認められている。こうした活動を通して、学生には、学校教育に対する理解を拡げ、自らの教育哲学や指導スキルを深化させることが期待されている。

3.3 小括

IB コースの科目は、以上のように、IB 教育について学ぶ科目と中等教育専攻の共通の科目から構成されているが、この 2 つのカテゴリーの単位数を比較すると、実は前者の方が少ない。すなわち、前者の合計単位数は 28 であり、その比率は総単位数 62 の 45%と半数を下回っている。さらに、28 単位中、IB コースの特設科目（IB 概論、IB 教科セミナー）は 5 単位分で、総単位数の 8%を占めるに過ぎない。

こうした単位数の構成比が示唆しているのは、IB 教員養成においても、その独自の学修内容が分厚く存在しているわけでなく、また固有の教育方法が別に存在しているわけでもないということである。これは IB 教育の普及にとって、むしろ好ましい条件と見ることができる。つまり、少なくとも UBC の教員養成課程において IB 教員は、それ以外の教員と大きく異なる存在として想定されているのではなく、若干の追加的な学修を経ることで誰でもなれるという、1 つの開かれた選択肢として位置づけられている。修了生が直ちに州内で正規の IB 教員として勤務することが難しい状況のなか、この養成コースの目的は、

通常の教員養成の傍ら、まずは教育界に IB 教育についてよく知る人材を増やすことに置かれていると理解できるだろう。

4. おわりに

本稿では、IBDP を設置する BC 州の公立中等学校と、その教員養成コースを付設する同州の UBC 教員養成課程でのそれぞれの IB 教育の受け入れ方を、制度面から明らかにしてきた。まず公立の IBDP 認定校は DP を、大学での学修や、その先に控える職業生活で求められる能力を養う上で州カリキュラムより優れたプログラムとして理解し、その履修は、DP に適応可能な生徒に限定する傾向が認められる。それに対し、その教員養成コースでは、何よりまず中等教員として機能するための準備が重視され、IB 教育の内容は付加的な位置づけにとどまっている。IB 教育を学ぶための特別な資質を入学時点で学生に要求することもない。

たしかに、IBDP において生徒は、州カリキュラムよりも、問いに対し、論文をはじめとする長い文章の形式で答える機会が多い。したがって IB 教員には、こうした課題に対応できる能力が必然的に求められる。しかし、そのための特別なカリキュラムがほとんど用意されていないところからは、指導内容の面で州カリキュラムと IBDP のあいだの共通性が高いことが推察される。少なくとも両者は異質なものとしては認識されておらず、いわば IBDP は州カリキュラムの 1 つの発展型として理解されていると言って良いだろう。

以上のような BC 州の事例は、IBDP 認定校を増やし、一般の学校でも探究的な学習を推奨する政策をとる日本の高校教育に向けて 1 つの検討課題を示唆している。それは、IBDP の教員養成のカリキュラムをどのように構成するかということではない。むしろ、通常の高校教員の養成課程で、学生に対し、論文の執筆を含む生徒の研究活動を指導できるだけの資質をどのように獲得させるか、ということが問題になるだろう。

注

1) International Baccalaureate Organization, 2015, *The IB Diploma Programme Statistical Bulletin, May 2015 Examination Session*, p. 14. http://www.ibo.org/contentassets/bc850970f4e54b87828f83c7976a4db6/dp-2015-may-stats-bulletin.pdf (2016 年 7 月 11 日)

IB 試験の受験者数には、IB 科目の一部を履修し、ディプロマの取得を目指さない生徒も含まれている。

2) 各国の IBDP 認定校数は、次のウェブサイトで検索し、確認した。International Baccalaureate Organization, “The IB by country.” http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-country/ (2016 年 8 月 31 日)

3) たとえばノヴァスコシア州では、10 校の公立校の IBDP 認定を控えた 2005 年に、教員 128 名対象の 3 日間の研修が実施されたという（Department of Education, Nova Scotia, 2005, December 8, “International Baccalaureate program training underway for teachers.” http://novascotia.ca/news/release/?id=20051208001 2015 年 12 月 7 日）。

4) The University of British Columbia, “UBC overview & facts.” http://www.ubc.

ca/about/facts.html（2016 年 8 月 31 日）

UBC は、2015 年発表のタイムズ・ハイアー・エデュケーション世界大学ランキングでは 34 位で、これはカナダ国内では 19 位のトロント大学に次ぐ順位であった（Times Higher Education, “World University Rankings 2015–2016.” https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2016/world-ranking#!/page/0/length/-1/sort_by/rank_label/sort_order/asc/cols/rank_only 2016 年 8 月 27 日）。

5) 文部科学省「（参考資料）国際バカロレア日本アドバイザリー委員会における質問に対する回答集（Q&A）」（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1356337.htm 2016 年 8 月 27 日）において、UBC は、同じカナダのトロント大学とともに、最も多くの IB ディプロマ取得者を受け入れている大学として紹介されている。

6) BC 州の IB 認定校（45 校）が州内の初等・中等教育段階の学校数全体に占める割合は 2.3%である（2015/16 年度の学校数は 1,930 校）。この割合を単純に 2015 年度の日本の状況に当てはめると、国内に 1,270 の IB 認定校が存在することになる（母数は文部科学省の学校基本調査の初等中等教育機関等の学校数の合計）。実際には同時期の日本国内の IB 認定校数は 36 であり（2016 年 8 月末時点では 39）、そのうちの半数以上の 23 校（2016 年 8 月末時点では 24 校）は学校教育法第 1 条に規定されていないインターナショナルスクール等の学校である。なお、上記の学校数は、BC 州は Ministry of Education, British Columbia, “Student statistics – 2015/16: Province – public and independent schools combined,” p. 30（http://www.bced.gov.bc.ca/reports/pdfs/student_stats/prov.pdf 2016 年 7 月 22 日）、日本は文部科学省「平成 27 年度学校基本調査（確定値）」（http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2016/08/12/1365622_2_1.pdf 2016 年 8 月 31 日）で確認した。また、日本の IB 認定校に関する情報は、次のウェブサイトで検索し、収集した。International Baccalaureate Organization, “Find an IB World School.” http://www.ibo.org/programmes/find-an-ib-school/（2016 年 7 月 22 日）

7) 州内の公立の仏語学校は 30 校あり、学校の所在地にかかわらず、1 つの教育当局（Conseil scolaire francophone）の管轄下に置かれている。学校数は次のウェブサイトで確認した。Conseil scolaire francophone de la Colombie-Britannique, “Écoles.” https://www.csf.bc.ca/ecoles/（2016 年 8 月 31 日）

8) Richmond Secondary School, 2016, January 13, “International Baccalaureate Student Information Meeting.” https://rhsib.files.wordpress.com/2015/12/ib-info-night-pkg-2016.doc（2016 年 7 月 11 日）

オンタリオ州の大学の入学者選考担当者（24 大学のうち 8 大学 19 名）の IBDP に対する認識を調査したカールトン大学の大学院生フィッツジェラルド（Saira Fitzgerald）によれば、IBDP がカナダ各州のカリキュラムと比較して、大学での学修への準備という点で優れていると考える担当者が多数を占めたという。他方、研究スキルという点では、IB ディプロマ所持者に優秀性を認める担当者数より、判断できないと回答した担当者数の方が上回っていた。出典は次の通り。Fitzgerald, Saira, 2015, “Perceptions of the International Baccalaureate (IB) in Ontario universities,” *Canadian Journal of Education*, 38(3), pp. 1–34.

9) たとえばUBCが示すIBDP科目を1年次科目の単位として認定する際に必要なIB科目のスコアは、7点満点中5または6点以上である（The University of British Columbia, “First-year credit.” http://you.ubc.ca/applying-ubc/applied/first-year-credit/#international_baccalaureate 2016年8月16日）。

10) International Baccalaureate Organization, “Benefits for universities.” http://www.ibo.org/benefits/benefits-for-universities/（2016年8月30日）

IBOは2008年に、DPに関する調査研究の知見をまとめた冊子*A Review of Research Relating to the IB Diploma Programme*（http://www.ibo.org/globalassets/publications/ib-research/dpresearchreview-1.pdf 2016年8月30日）を発表している。そこで紹介されているものの1つに、BC州内の公立学校でDPを選択し大学に進学した元生徒16名にプログラムを評価させた元IB教員のテイラー（Mary Lee Taylor）とUBC教育学部のポラス（Marion Porath）の研究がある。そこでは、元生徒は履修当時、一定のストレスを感じることがあったものの、批判的思考力と時間管理スキルを伸ばすことができたなどという点で、プログラムへの評価は肯定的ということであった。出典は次の通り。Taylor, Mary Lee and Marion Porath, 2006, “Reflections on the International Baccalaureate Program: Graduates’ perspectives,” *Journal of Secondary Gifted Education*,17(3), pp. 21–30.

11) Seaquam Secondary School, “Are you IB?” https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=sites&srcid=ZGVmYXVsdGRvbWFpbnxzZWFxdWFtaWJ8Z3g6NGNmZGU3ZTUyMzYwNjM3Ng（2016年7月12日）

12) Seaquam Secondary School, “International Baccalaureate Programme, IB Full Diploma Application Package (2018 Cohort).” https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=sites&srcid=ZGVmYXVsdGRvbWFpbnxzZWFxdWFtaWJ8Z3g6NTlmNjdjNWUxYmVjMjY0NQ（2016年7月12日）

13) Ibid.

14) Ministry of Education, British Columbia, “Public school reports.” https://www.bced.gov.bc.ca/reporting/school.php（2016年9月3日）

15) 注12に掲げたウェブサイト掲載の資料による。

16) BC州の学校法（School Act）第3条は、就学義務年限を5歳から16歳までと定めている（Queen’s Printer BC, British Columbia, “School Act.” http://www.bclaws.ca/civix/document/LOC/complete/statreg/--%20S%20--/05_School%20Act%20[RSBC%201996]%20c.%20412/00_Act/96412_02.xml 2016年9月22日）。

17) 第一言語教育の教科の総称であり、州カリキュラムには英語、第一言語としての仏語、先住民向け英語の3科目が設置されている。

18) 2016年9月に10年生に進級した学年から、新しい試験制度（第10学年数学と第12学年言語に相当する試験のみ実施）が全面的に適用されるという（Ministry of Education, British Columbia, “Path to graduation.” https://curriculum.gov.bc.ca/graduation-info 2016年8月21日）。

19) 「健康」「コミュニティとのつながり」「職業と生活」の3領域からなる体験活動中心の教科。なお、今後、「卒業後の生活への移行」は、キャリア教育教科の「プランニング」

とともに新しいキャリア教育科目に置き換えられることになっている。

20) International Baccalaureate Organization, “Curriculum.” http://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/curriculum/ (2016 年 8 月 23 日)

21) Ibid.

22) International Baccalaureate Organization, “IB language A: literature higher level subject brief.” http://www.ibo.org/globalassets/publications/recognition/1_languagea_hl_2011.pdf (2016 年 8 月 23 日)

23) International Baccalaureate Organization, “Understanding DP assessment.” http://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/understanding-ib-assessment/ (2016 年 8 月 23 日)

24) IBO は IB 試験を 5 月と 11 月の年 2 回実施している。

25) 次の IBO ウェブサイトに掲載された各 IBDP 科目の概要（subject brief）記載の情報による。International Baccalaureate Organization, “IB recognition resource library.” http://www.ibo.org/university-admission/ib-recognition-resources-and-document-library/#briefs (2016 年 8 月 24 日)

26) 試験は 60～150 分の単位に区切って実施されている（International Baccalaureate Organization, “May 2016 examination schedule.” http://www.ibo.org/contentassets/7f6c7681e0b34fc8b0541c1229c7521d/examination-schedule-may-2016.pdf 2016 年 8 月 24 日）。

27) 各科目の過去の試験問題は、次のウェブサイトで閲覧した。International Baccalaureate Organization, “Sample exam papers.” http://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/sample-exam-papers/ (2016 年 8 月 24 日)

28) International Baccalaureate Organization, “International Baccalaureate Diploma Programme Subject Brief, Diploma Programme core: Extended essay, including the world studies option.” http://www.ibo.org/globalassets/publications/recognition/core_extessay.pdf (2016 年 8 月 24 日)

29) Ibid.

30) International Baccalaureate Organization, “International Baccalaureate Diploma Programme subject brief, Diploma Programme core: Theory of knowledge.” http://www.ibo.org/globalassets/publications/recognition/core_tok.pdf (2016 年 8 月 24 日)

31) Ibid.

32) International Baccalaureate Organization, “Core requirements: Extended essay, theory of knowledge and creativity, action, service subject brief.” http://www.ibo.org/globalassets/publications/recognition/core_2011.pdf (2016 年 8 月 24 日)

33) International Baccalaureate Organization, “International Baccalaureate Diploma Programme subject brief, Creativity, activity, service.” http://www.ibo.org/contentassets/5895a05412144fe890312bad52b17044/cas-2016-english-1st-final-web.pdf (2016 年 8 月 24 日)

34) 国際バカロレア機構、2015、『DP 手順ハンドブック　2016 年版』p.16。 http://www.ibo.org/globalassets/publications/handbook-of-procedures-jp.pdf (2016 年 8 月 28 日)

35) 注 23 に掲げたウェブサイト掲載の資料による。

36) The University of British Columbia, “How UBC makes admissions decisions.” http://you.ubc.ca/applying-ubc/applied/admissions-decisions/ (2016 年 9 月 2 日)

37) The University of British Columbia, “International Baccalaureate requirements.” http://you.ubc.ca/applying-ubc/international-baccalaureate/ (2016 年 9 月 2 日)

英語力の基準には複数が設けられており、IBDP の場合、教科グループ 1（言語と文学）の SL または HL の「英語」（文学または文学・言語）の最終スコアが 5 点以上とされている。BC 州中等学校在籍中の生徒が利用できる他の基準には、たとえば「大学入学まで、カナダで英語を教授言語とする学校に 3 年以上在籍していること」「BC 州統一テストの第 12 学年英語またはそれに相当する科目で 70%以上の点数を得ていること」がある（The University of British Columbia, “English language competency.” http://you.ubc.ca/applying-ubc/english-language-competency/ 2016 年 9 月 2 日）。

38) 注 37 に掲げたウェブサイト掲載の資料による。

39) The University of British Columbia, “What grades are required for admissions consideration?” http://you.ubc.ca/applying-ubc/how-to-apply/required-grades/ (2016 年 9 月 2 日)

カナダ各州のカリキュラムを履修した出願者に対する目安は、多くの専攻が、大学に提出する最終成績の 80%台半ばから後半としている。

40) 現行の中等教育後期の州カリキュラムのなかで、評価方法に論文作成を積極的に取り込む教科目は、社会科の一部の科目に限られている。なお、2016 年 9 月から試行が始まっている第 10 学年以上の新カリキュラム（試案）での評価方法は、本稿執筆時点では確認できていない。

41) Teacher Regulation Branch, Ministry of Education, British Columbia, “Types of certificates issued by the Teacher Regulation Branch of the Ministry of Education.” https://www.bcteacherregulation.ca/Teacher/CertificatesIssued.aspx (2016 年 9 月 27 日)

なお、BC 州では 1988 年から 2012 年まで、ブリティッシュ・コロンビア州教員会（British Columbia College of Teachers）という官製の教員組織が教員免許を発行するシステムをとっていた（Teacher Regulation Branch, Ministry of Education, British Columbia, “About us.” https://www.bcteacherregulation.ca/AboutUs/AboutUs.aspx 2016 年 9 月 27 日）。

42) International Baccalaureate Organization, 2014, *IB Teaching and Learning Certificates, University Directory 2015*, pp. 3–4.

43) カナダ人学生とそれ以外の学生の授業料も異なる。2016/17 年度の DP のコースの学費は、カナダ人学生は 1 万 1,709.32 ドル（約 94 万円）、それ以外の学生は 5 万 590.14 ドル（約 405 万円）である（The University of British Columbia, “Undergraduate tuition fees.” http://students.ubc.ca/enrolment/finances/tuition/undergraduate-tuition-fees 2016 年 9 月 2 日）。

44) Techer Education Office, Faculty of Education, The University of British Columbia, “UBC’s International Baccalaureate educator stream.” http://teach.educ.ubc.ca/bachelor-of-education-program/international-baccalaureate/ (2016 年 9 月 2 日)

45) この段落の記述は次の資料による。“Secondary Program, General Admission Requirements” http://teach.educ.ubc.ca/files/2015/06/Secondary-General-Admission-Requirements-2015-16.pdf（2015 年 10 月 23 日）

46) BC 州内の中等学校で開講数が小規模にとどまる教科目（英語と仏語以外の語学、第二言語としての英語、コンピュータ科学、社会科学）の教員志望者には、他の教科を追加して出願することが要求される。

47) Techer Education Office, Faculty of Education, The University of British Columbia, “IB Diploma Programme (DP).” http://teach.educ.ubc.ca/bachelor-of-education-program/international-baccalaureate/dp/（2016 年 9 月 2 日）

UBC の IB 教員プログラム長のリトル（Gary Little）氏によれば、各 IB コースの学生数は、それぞれ 30 名程度だという（リトル氏からの電子メール（2015 年 10 月 29 日）による）。

48) リトル氏からの電子メール（2015 年 10 月 29 日）による。

49) International Baccalaureate Organization, 2014, p. 3.

この 4 つの領域の原語はそれぞれ curriculum process、teaching and learning、assessment and learning、professional learning だが、典拠に示されている各領域の具体的な教授項目に即し、筆者が意訳した。

50) リトル氏からの電子メール（2015 年 10 月 29 日）による。

51) Faculty of Education, The University of British Columbia, “EDUC 490 I (4 credits).” http://teach.educ.ubc.ca/files/2015/08/EDUC490-I.pdf (2015 年 11 月 2 日)

52) IB の学習者像とは、IBO が定める次の 10 の人物像を指す。「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」（国際バカロレア機構、2014、『国際バカロレア（IB）の教育とは？』4 頁。http://www.ibo.org/globalassets/digital-tookit/brochures/what-is-an-ib-education-jp.pdf 2016年9月2日）。

53) 国際バカロレア機構、「指導の方法」。https://ibpublishing.ibo.org/dpatln/apps/dpatl/guide.html?doc=d_0_dpatl_gui_1502_1_j&part=3&chapter=1（2016 年 9 月 2 日）

54) 注 51 のウェブサイト掲載の資料による。

55) Techer Education Office, Faculty of Education, The University of British Columbia, “The mission of teacher education at UBC.” http://teach.educ.ubc.ca/about/mission/（2016 年 9 月 5 日）

56) Goodnough, Karen, Shawn Bullock and Keith Power, 2015, “The pedagogy of Canadian initial teacher education,” Thomas Falkenberg ed., *Handbook of Canadian Research in Initial Teacher Education*, Ottawa, ON: Canadian Association for Teacher Education, p. 193.

57) Ibid., pp. 193–195.

58) Faculty of Education, The University of British Columbia, “EDUC 450 – Inquiry Seminar I, Secondary (3 credits).” http://teach.educ.ubc.ca/files/2015/09/EDUC-450-Secondary.pdf（2015 年 12 月 7 日）

59) Teacher Education Office, Faculty of Education, The University of British

Columbia, n.d., *Bachelor of Education Program Practicum Guide 2015–16*, pp. 8–10.

60) Ibid., pp. 10–12.

61) "EDUC 430: Community Field Experience (1)." http://teach.educ.ubc.ca/files/2016/08/EDUC-430.pdf (2016 年 9 月 5 日)

英国ダラム大学における実践的 IB 教員養成

山崎　智子

1. はじめに

イギリスにおいて IB 教授資格のためのプログラムを提供している大学は、ダラム大学（University of Durham）、バース大学（University of Bath）、ロンドン大学教育学研究所（Institute of Education, UCL）、サセックス大学（University of Sussex）、ダンディー大学（University of Dundee）、である。これらのうち、IBDP の教員養成プログラムを提供している大学は、ダラム大学のみである。そこで、本稿においては、ダラム大学の IBDP 教員養成プログラムである「PGCE (International)」について検討する。

2. イギリスにおける IBDP 導入の状況

イギリスにおいて、最初に IB が導入されたのは 1971 年 [1]であり、公立学校に IBDP が導入されたのは 1977 年 [2]である。現在、イギリスにおいては、公立学校 56 校（ロンドン市内にある学校は 8 校）と私立学校 79 校が、IBDP 校として認定されている [3]。イギリスにおける IBDP 校はイングランドに集中しており、公立学校の場合、ウェールズにある 1 校を除いてすべてイングランドにある。なお、公立学校 56 校の校種の内訳は以下の通りである。この表からもわかるように、IBDP 認定校には、アカデミーやコミュニティスクールなど、多様な校種の公立学校がある。

表 1　公立学校 56 校の内訳 [4]

校種	数
アカデミー（転換型／スポンサー主導型） Academy (Converter/Sponsor-led)	32
シックス・フォーム・カレッジ Sixth Form College	7
一般継続教育カレッジ General and Further Education Tertiary	6
地域学校 Community School	4
有志団体立補助学校 Voluntary-Aided School	2
有志団体立管理学校 Voluntary-Controlled School	2
地方補助学校 Foundation School	1
学習プロバイダー Independent Leaning Provider	1
継続教育（ウェールズ） Further Education (Wales)	1
合計	56

表 2　IBDP 校の例 [5)]

学校名および所在地	認定年	校種	IBDP/A レベル/BTEC	Ofsted 査察
Anglo European School（エセックス）	1977	アカデミー	IBDP	良
Barton Court Grammar School（ケント）	2006	アカデミー	IBDP or A レベル	優
Broadgreen International School, A Technology College（リヴァプール）	1991	地方補助学校	IBDP or BTEC	要改善
Eltham Hill School（ロンドン）	2013	地域学校	IBDP or A レベル	優
St Benedict's Catholic High School（ウォリックシャー）	2011	有志団体立補助学校	IBDP or BTEC	優
Westminster Academy（ロンドン）	2008	アカデミー	IBDP	優

表 2 からは、IBDP とイギリスの一般的な中等教育修了資格である A レベル（General Certificate of Education Advanced Level）を並行して履修できるカリキュラムが一般的ではないことが指摘できる。少なくとも現段階では、IBDP と A レベルはどちらかを選ぶ形になっているようである。また、（A レベルではなく）職業教育の色合いが濃い BTEC (Business and Technology Education Council)と IBDP のどちらかを選ぶ形になっている学校も散見される。これは、他国の IBDP 実施状況とは大きく異なる点である。

イギリスでは、ブレア労働党政権時（1997-2007 年）に IB 認定校の拡大政策がとられ、一つの教育当局（Local Education Authority: LEA）に最低一つの IB 校を置くことが企図された。この政策の影響もあって、イングランドでは、2007 年に IB 校が 100 校を超え、2010 年には 230 校に達した。しかしながら、その後急激に IB 校は減少した。こういった動きを見せた国は他にない（Bunnell 2008, 2015）。その原因としては、財源が不足したことと、バカロレア型の教育が大学に理解されなかったことで、特に公立学校が IBDP をやめたことが指摘されている（Ibid.）。前者に関しては、ブレア政権下では公費補助によって IBDP 校を増やそうとしたが、その補助が打ち切りとなったことで、各学校で IB 校の認定料を払う必要が出てきた。それゆえ、IB 認定校が減少することとなった。後者に関しては、IBDP は、2006 年になって初めて UCAS（大学・カレッジ入学サービス機構、Universities and Colleges Admissions Service）のポイント表（tariff）に掲載され、認知度が上がったのは比較的最近のことである。しかし、受験生は、大学側が IBDP をどのように評価するかが不明であるため、それほど積極的に IBDP を選択しなかった。また、A レベルは「成績のインフレ」という傾向にあり、受験生は IBDP を選択することで不利になる可能性を心配したともいわれている [6)]。

なお、現在、イングランドにおいては、A レベル試験改革が進行中である。マイケル・ゴヴ（Michael Gove）元教育大臣は、A レベル試験を“Advanced Baccalaureate”という IB スタイルのものに改革しようと画策した [7)]。その背景には、A レベル試験が過度に専門

化していて学生の視野が狭いことや、しばしば学生の基本的リテラシーが十分でないことがあったと報じられている [8]。それゆえ、IBDP のような広範囲にわたる科目の学習を高く評価し、「対照的な（“contrasting”）」科目の履修を求めようとした。また、トップレベルの大学に進学希望の者に対しては、5,000 語程度の論文を書くことも求めようとした。A レベル改革が IB 教育の推進といえるかどうかについては議論が分かれるところではあるが、「モジュール型」といわれる A レベルを「リニア型」に変える（山村 2016、花井 2016、山崎 2016a）という点においては、IB 教育に近いものになるといえよう。

3. イングランドにおける教員養成

イングランドでは、公立学校の教員になるためには QTS（Qualified Teacher Status、正教員資格）が基本的に必要である。イングランドにおける教員養成ルートとしては、学卒後 1 年間の課程である PGCE（Postgraduate Certificate in Education）、（通常 3 年間の学士課程より 1 年長い 4 年間の）教育学士（Bachelor of Education）といったいわゆる「伝統的」教員養成に加えて、SCITT（School-centred Initial Teacher Training）、ティーチ・ファースト（Teach First）、スクール・ダイレクト（School Direct）といった「代替ルート」の教員養成もある。後者の、学校での実践を中心として教員養成を行う方法は、イングランドにおいては「学校ベース」の教員養成とも呼ばれている。

近年の教員養成政策の傾向は、「学校ベース」の教員養成の大幅な拡大である。それは、2010 年の労働党政権から保守連立政権への政権交代によって特に顕著なものとなった。現在、現場での実習を中心としたスクール・ダイレクトの定員枠が急速に拡大している。このように、現在のイングランド教員養成は実践重視の傾向が著しい。また、もう一つ特徴的なのは、QTS 非保持者に教員として働くことを認めるフリー・スクールが設立され、また、法律改正によってアカデミーにおいても QTS 非保持者が教授可能になったということである。

4. ダラム大学における IB 教員養成

ダラム大学における IB 教員養成は、「PGCE (International)」（以下 PGCE (Int.)と略）という名称で、フルタイム 1 年間のプログラムとして提供されている（定員は 12～14 名）。このプログラムの特徴は、スイスのジュネーヴ・インターナショナル・スクール（Ecolint: International School of Geneva / L’Ecole Internationale de Genève）との共同プログラムとして提供されていることである。つまり、国家をまたいだプログラムであるという点において、非常に特徴的である。プログラムはいわゆる「学校ベース」のもので、同校での実習を基本とし、ダラム大学における授業も含まれている。しかしながら、学校での実習がイングランド外で行われるため、イングランドの正教員資格 (QTS) は取得できない。このように、基本的に本プログラムは IB 校での実践を通じて IBDP の教授資格を取得することを目的とするものである。

なお、ダラム大学においては、教員養成系、つまり QTS 取得プログラムとしては BA Primary Education、PGCE Secondary、PGCE Primary が、教育学系、つまり非 QTS 取得プログラムとしては MA Education、MSc Technology Enhanced Learning、MSc in Educational Assessment、MA Intercultural Communication and Education、MA in Research Methods (Education)、Postgraduate Certificate in the Practice of Education

が提供されている。

本プログラムには、実施形態に加えて、授業料にも特徴がある。授業料は、①登録（registration）、②専門（professional）、③学術（academic）という 3 つのパートに分かれている。まず、①については、無条件合格（unconditional offer）の場合、1,000 スイスフラン（約 115,000 円、1 スイスフラン＝115 円で計算）を Ecolint に納付する必要がある。また、②については、すべての受講生が Ecolint に納付するプロフェッショナルな学習のための授業料で、1 年間 18,750 スイスフラン（約 2,500,000 円）である。ここには、①の登録料も含まれる。そして、③はアカデミックな学習のための授業料で、ダラム大学に納付するものである。この授業料は、イギリスあるいは EU 学生の場合、1 年間 6,500 イギリスポンド（約 1,100,000 円、1 イギリスポンド＝170 円で計算）で、海外学生の場合、1 年間 7,000 イギリスポンド（約 1,200,000 円）である。（なお、ダラム大学で提供されている他の PGCE プログラムの授業料は、イギリスあるいは EU 学生の場合は 9,000 イギリスポンド（約 1,500,000 円）で、それ以外の海外学生の場合は 15,700 イギリスポンド（約 2,650,000 円）である。）これら 3 つのパートから授業料は成り立っているのであるが、PGCE プログラムにおいてプロフェッショナルな学習のための授業料が必要になることは一般的ではないため、既存の PGCE プログラムよりも多くの費用が必要なプログラムであるといえる。

カリキュラムについては、以下の 3 つのモジュールから構成されている。

（1）プロフェッショナル・モジュール
（2）アカデミック・モジュール①（修士レベル）
（3）アカデミック・モジュール②（修士レベル）

こうしたカリキュラム構成は、イングランド国内で実施されている他の PGCE プログラムとほぼ同様のものである。なお、実習については Ecolint が中心となり、プログラムのアカデミックな部分をダラム大学が担っている。

（1）プロフェッショナル・モジュール
科目名「学校ベースの教育における専門的な課題（EDUC30230: Professional Issues in School-based Education (Int)）」

- ■ レベル：3
- ■ 単位数：30
- ■ 授業の目的：教員としての専門的コンピテンシーの開発に関する重要な課題の理解
- ■ 内容
  - ➢ 効果的な教授と学習のための教室内での戦略に関する研究データ
  - ➢ 教授と学習環境の管理
  - ➢ 省察的実践家としての教師；詳細な文脈づけ
  - ➢ 理解のための教授
  - ➢ 教授と学習の創造に富んだ特質

■　教授方法と時間数

活動	数	頻度	時間数	合計時間
準備とリーディング				30
セミナー	20	実習期間中、週 1 回	1	20
実習	10	約 25 週間の間、週 1 回	1	250
合計				300

■　総括的評価

構成要素：省察的概要（reflective overview）に基づく専門的ポートフォリオ。約 3,000 語。省察的概要は 1,500 語以上にならないことが望ましい。		構成要素のウェイト：100%	
要素	長さ／期間	要素のウェイト	再試験の機会
課題	上記の課題の予備的要約と概略、読んだ文献を示すために重要な文献目録をつけること。	100%	

■　形成的評価

上記の課題の予備的要約と概略、読んだ文献を示すために重要な文献目録をつけること。

（2）アカデミック・モジュール①

科目名「カリキュラムにおける教授と学習―学校ベースの教育における一般的な課題（EDUC43330: Teaching & Learning In the Curriculum - Generic Issues in School Based Education (Int)）」

■　レベル：4

■　単位数：30

■　授業の目的：教授と学習のモデルとそれらの理論的基礎についての重要な理解

■　内容

- 効果的な教授と学習のための教室内での戦略に関する研究データ
- 省察的実践家としての教師；詳細な文脈づけ
- 理解のための教授
- 教授と学習の創造に富んだ特質
- 活動的な研究者（active researcher）としての教師；多様な理論モデル

■　教授方法と時間数

活動	数	頻度	時間数	合計時間
講義	10	教授・学習カンファレンス[9]（Teaching and Learning Conference）の間	1 時間	10
セミナー	8	教育カンファレンス（Education conference）の間、教授・学習カンファレンスの間	2 時間	16
チュートリアル	10	カンファレンス後の e チュートリアル、電話上でのチュートリアル	2 時間	20
準備とリーディング				254
合計				300

■　総括的評価

構成要素：課題		構成要素のウェイト：100%	
要素	長さ／期間	要素のウェイト	再受験の機会
課題	5,000 語	100%	あり

■　形成的評価

上記の課題の予備的要約と概略、読んだ文献を示すために重要な文献目録をつけること。

（3）アカデミック・モジュール②

科目名「自主学習―学校ベースの教育における教科に特有の課題（EDUC43430: Self Directed Study - Subject Specific Issues in School-Based Education (Int)）」

■　レベル：4

■　単位数：30

■　授業の目的

- ➢ PGCE の学生が、モジュールで扱った教科やテーマについての教育研究に関する詳細な分析に着手できるようになる。
- ➢ 異なるタイプの教育研究や、基礎となる多様な哲学的アプローチについて研究（explore）する。

■　内容：自主学習の内容は、大学ベースの経験と学校ベースの経験の間に関連性を持たせることを目的とした明確なガイダンスを通じて、その前になされた活動、特に、学校での実習と教授・学習カンファレンスから生じるものである。

■　教授方法と時間数

活動	数	頻度	時間数	合計時間
セミナー	5	教授・学習カンファレンスの間	2 時間	10
チュートリアル	20	教授・学習カンファレンス後の e チュートリアルや電話上でのチュートリアル、メンターサポート	1 時間	20
準備とリーディング				170
合計				200

●　総括的評価

構成要素：課題		構成要素のウェイト：100%	
要素	長さ／期間	要素のウェイト	再受験の機会
課題	5,000 語	100%	同じ

●　形成的評価

上記の課題の予備的要約と概略、読んだ文献を示すために重要な文献目録をつけること。

出典：ダラム大学ウェブサイト（https://www.dur.ac.uk/postgraduate.modules/）より筆者訳出。

こうしたモジュールの説明から推察できることとしては、Ecolint での実習についての省察に重きが置かれていることが挙げられる。アカデミック・モジュールでも、実践を意味づけるため、あるいは理論と実践をつなげるための学習が重点的に行われているようである。また、受講生がいる実習校が遠隔地にあるという関係もあってか、e ラーニングや電話でのチュートリアルなどが活用されていることも特徴的であるといえよう。

なお、プログラムを修了してからも学修を続けたい受講生には、PGCE（Int.)を終えた後、パートタイム 2 年間の教育学修士（MA Education）プログラムに接続するルートが用意されている。その場合、上述のアカデミック・モジュールは、修士号プログラムの一部としてカウントされることになるとされている。

5. イングランド特有の教員養成の文脈

4.で確認してきたように、イングランドで唯一ダラム大学が提供している IBDP 教員養成プログラムは、（大学がある）イングランド国内ではなく、実習校があるスイスでの学びを中心として展開されるものであるといえる。このことはつまり、大学の役割が、教員養成の主たるプロバイダーではなく、PGCE という学術的な資格を授与するために必要な、単位を認定する役割に特化していることを意味する。これは、近年のイングランドにおける「学校ベース」の教員養成に特有の現象である。その意味において、ダラム大学の IBDP 教員養成プログラムは、きわめてイングランド的なものであるともいえる。

もう一つ指摘できることとしては、イングランド国内で、QTS と IBDP 教員資格の両方を取得できるプログラムはないということである。この点でも、他国の IBDP 教員養成とは異なっている。ただし、前述のとおり、現在アカデミーやフリー・スクールにおいて、QTS を持たない者も教授することが認められるようになった。それゆえ、ダラム大学の IBDP 教員養成プログラム修了生がイングランドの学校内で教員として働くことも実際にはありうる。さらにいえば、今後、IBDP 教員資格が QTS に比肩するような資格として認知されるようになる可能性もないわけではない。

また、イングランド特有の現象として重要だと思われることは、「学校ベース」の教員養成が広がったことで、QTS 取得プログラムをやめる大学が出現しているということである。たとえば、バース大学やキール大学は、QTS の課程認定を得ることをやめ、教員養成プロバイダーとしての役割を返上した。現在、キール大学は QTS の取得を目的としない「PGCE International」と「PGCE Academic Award」というプログラムを提供している。加えて、同大学は、SCITT の一員として、「学校ベース」の教員養成に関わっている（山崎 2016b）。このように、研究系の大学を中心に、QTS の課程認定（accreditation）をやめるという大学が出てきはじめているが、ダラム大学のように IB 教員養成課程を置くことが今後新たなオプションとして選ばれるようになる可能性は大いにあるだろう。

なお、IB そのものの普及については、イギリスの場合、他国とは異なり、IBDP と A レベルを並行して受講するという履修方法は一般的ではない。現在、政府が教育改革の一部として IB 型の教育を積極的に導入しようとしているが、それは A レベル改革の一環としての位置づけであるために、今後 IB 認定校が再び増加するかどうかは未知数である。ただし、A レベル改革の方向性如何によっては、A レベルと IBDP を並行して履修できる学校が出てくる可能性はある。つまり、前述のとおり A レベル改革は、イングランドにおける「モジュール型」のカリキュラムを IB などと同様に「リニア型」のものへと変化させるという性格をもつものである（山村 2016、花井 2016、山崎 2016a）ため、改訂版 A レベル試験は、IBDP と共通性が見出せるようなものになることが想定されるのである。とはいっても、現在のところ積極的に IBDP 認定校増加政策がとられる兆しはないため、IBDP 認定校に公費が拠出されるというような形ではなく、各学校の判断にゆだねられることになるだろう。

イングランドにおける IB 教員養成は、トランスナショナルな性格を持つものであるという点においては、国家を超えた教育を志向する IB 教育の理念と親和性があるとも解釈可能である。一方で、IB の公立学校への導入は、新自由主義的改革のオプションとみなされることもあるが、IB 教員養成がそういった側面について正面から取り扱うようなものになっているのかというと、少なくともダラム大学のカリキュラムを見る限りではそうではないといえる。

ダラム大学の IBDP 教員養成プログラムは、ドナルド・ショーンの省察的実践家モデルや省察の手法に依拠したプログラムのように見える。プロフェッショナル・モジュールのみならず、2 つのアカデミック・モジュールにおいても、省察が基盤となっている。しかしながら、そうしたモデルや手法の有効性がどの程度確かなものかというと、実際のところは不明確であるといわざるを得ない。とはいっても、イングランドの「学校ベース」の教員養成プログラムは省察を重視したものになっていることが多いため、ダラム大学の IBDP 教員養成プログラムだけの課題ではなく、イングランド教員養成全体の課題であるというほうが正確であろう。

このように、イングランドにおける IBDP 教員養成は、大学が教員養成の主たるプロバイダーとしてではなく、単位を認定する役割に特化できるというイングランド特有の文脈によって成立しているといえる。今後、A レベル改革の方向性によって変化がもたらされる可能性があり、また、イギリスの EU 離脱が何らかの影響を与える可能性も否定できない。イングランドの IB 教育と IB 教員養成双方に今後も注目する必要がある。

注

1) International Baccalaureate Organization ウェブサイト http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-country/u/united-kingdom/

2) Anglo European School ウェブサイト http://aesessex.co.uk/international-baccalaureate-0

3) IBO ウェブサイト http://www.ibo.org/programmes/find-an-ib-school/

4) イングランドの教育水準局（Ofsted: Office for Standards in Education, Children's Services and Skills）ウェブサイト<http://reports.ofsted.gov.uk/>及びウェールズの Estyn（Her Majesty's Inspectorate of Education and Training in Wales）ウェブサイト<http://www.estyn.gov.wales/inspection/search>より筆者作成。

5) IBO ウェブサイト、各校ウェブサイト、Ofsted ウェブサイトより筆者作成。

6) *Telegraph*, 'International Baccalaureate: is it any good?', 2013/04/29. http://www.telegraph.co.uk/education/secondaryeducation/10017618/International-Baccalaureate-is-it-any-good.html

7) なお、ゴヴは、GCSE（General Certificate of Secondary Education）も「英国バカロレア（English Baccalaureate）」へと変えることを表明していた。

8) *The Guardian*, 'Michael Gove plans baccalaureate-style shakeup of A-levels', 2012/10/17.http://www.theguardian.com/politics/2012/oct/17/michael-gove-baccalaureate-a-levels

9) 「教授・学習カンファレンス」は、毎年 1 月にダラム大学で開かれるものである。なお、スイスからイギリスへの渡航費や滞在費等は受講生が負担することとされている。

参考文献

Bunnell, T. (2008) 'The International Baccalaureate in England and Wales: the alternative paths for the future', *The Curriculum Journal*, 19(3), pp.151-160.

Bunnell, T. (2015) 'The rise and decline of the International Baccalaureate Diploma Programme in the United Kingdom', *Oxford Review of Education*, 41(3), pp. 387-403.

Department for Education (2016a) *Educational Excellence Everywhere* (Cm 9230). London: HMSO.

Department for Education (2016b) *DfE strategy 2015-2020: World-class education and care.*

花井渉（2016）「イギリスにおける国際バカロレア認証に伴う資格試験制度変容に関する研究」『比較教育学研究』第 52 号、90-112 頁。

Hill, I. (2003) 'The International Baccalaureate', in G. Phillips and T. Pound (eds.) *The Baccalaureate: A Model for Curriculum Reform*. London: Kogan Page.

NCTL (2014) 'Initial ITT allocations for the 2015 to 2016 academic year'. <https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/380187/initial-teacher-training-allocations-for-academic-year-2015-to-2016.xlsx>

The Teacher Education Group (2016) *Teacher Education in Times of Change*. Bristol: Policy Press.

山村滋（2016）「イギリスにおける大学入学者選抜制度改革―GCE 試験制度改革の分析」『比較教育学研究』第 53 号、3-13 頁。

山崎智子（2016a）「イギリスの大学入学試験改革に伴う「バカロレア」型カリキュラム導入の試みとその経過」『教師教育研究』Vol.9、296-303 頁。

山崎智子（2016b）「イングランド教員養成における Ofsted 査察の現代的位置づけ―'School Direct'の質保証に注目して」『日英教育研究フォーラム』第 20 号、151-164 頁。

資 料 編

玉川学園における
国際バカロレアディプロマプログラムと教員養成

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
平成27年6月20日

カメダ　クインシー
玉川大学学術研究所
K-16一貫教育研究センター講師

4つのプログラム

PYP	MYP	DP	CP
初等教育プログラム	中等教育プログラム	ディプロマプログラム	キャリア関連教育プログラム

(3 – 12歳)　(11 –16歳)　(16 –19歳)　(16 –19歳)

玉川学園の理念

小原国芳は、日本の教育の改革を行った人物として知られています。

全人教育を提唱し、この理念に沿って設立された幼稚園から大学までの総合キャンパスとしての玉川学園を設立しました。

玉川学園の理念

教育の重要な役割として、国家としてのアイデンティティーを確立することにより、異文化間の結びつきを深めることに役立つと考えました。

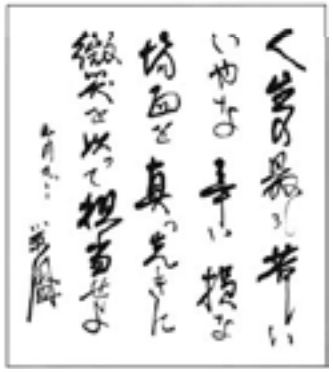
これは、教育の中で国際的感覚を育てることにより実現できます。

社会的コミュニケーション能力の養成が、世界市民として相互の尊敬と理解の基になると考えました。

玉川学園の理念

玉川学園の使命は、日本社会のみならず国際社会においても、積極的に貢献できる優れた人材を育成することです。

進む道に未知なる苦難があろうとも失敗を恐れずに難関に挑戦していく「人生の開拓者」を育てていくことが本学の使命です。



国際バカロレアの使命

- 国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。
- この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。
- IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、**自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人**として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

IBの学習者像

IBの学習者像

「IBの学習者像」は、「IBの使命」を具体化したもので、「国際的な視野をもつとはどういうことか」という問いに対するIBの答えの中核を担っています。

玉川学園の全人教育

玉川学園は創立以来「全人教育」を教育理念の中心として、人間形成には：

真・善・美・聖・健・富

の6つの価値を調和的に創造することを教育の理想としています。

その理想を実現するため「12の教育信条」を掲げた教育活動を行っています。

玉川学園の12の教育信条

- 全人教育
- 個性尊重、
- 自学自律
- 能率高き教育
- 学的根拠に立てる教育
- 自然の尊重
- 師弟間の温情
- 労作教育
- 反対の合一
- 第二里行者と人生の開拓者
- 24時間の教育
- 国際教育

国際バカロレア教育

IBの教育には、上記の価値観に即した次のような特徴があります。

- 学習者を中心に置く
- 「指導」と「学習」において効果的な方法を展開する
- グローバルな視野に立って取り組む
- 意味のある学習内容を探究する

これらの4つの特徴が一体となって、IBの教育を形づくっています。

IBを支える教育原理

すべてのIBプログラムにおいて、以下の6つの主要な教育原理に基づいて指導が行われます。

- 探究を基盤とした指導
- 概念理解に重点を置いた指導
- 地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導
- 効果的なチームワークと協働を重視する指導
- すべての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
- 評価（形成的評価および総括的評価）を取り入れた指導

探究型学習とは？

「IBの学習者像」には、IBの学習者は「探究する人」になるよう努力することが記されています。

そして「探究する人」になるとは、生まれもった好奇心を高め、自律的な生涯学習者となるために必要なスキルを身につけるプロセスであることが説明されています。

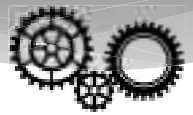
探究型学習とは？

探究では、世界を理解するために社会的環境や自然環境に積極的に関わり、その結果として、実際の体験と収集した情報との関連性について振り返りを行います。

また探究には知識の統合、分析、操作が伴います。

メビウスの輪

探究型学習とは？



探究は、児童生徒がすでに理解している事柄からスタートします。

そして、現在の理解と、新たな内容についての探究に取り組むことから得られる新しい情報や経験とを関連づけることにより、能動的に意味を構築することを目指します。

最も広義に捉えるならば、探究とは、児童生徒が現在の理解レベルから、より深い、新しい理解レベルへと移行するためのプロセスです。

探究型学習とは？

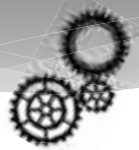
このプロセスは、児童生徒の手で開始する場合もあれば、教師が開始する場合もあります。探究は、以下の活動の多くを伴います。

推測、調査、疑問の提起
既習事項と現在の学習の関連づけ
調査研究
理論の構築と検証
データ収集、発見事項の報告、説明の構成
既存のアイデアの明確化、事象に対する認識の再評価
仮説の設定
特定の立場への立脚と、その立場からの擁護
さまざまな方法での問題解決
分析と評価
代替的な説明の検討

探究型学習とは？

IBのプログラムでは児童生徒は、文脈に応じて、自分自身で立てた問い、もしくは、あらかじめ与えられた問いに対する答えを探りながら、重要な諸課題を検討していくことが求められます。

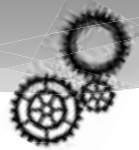
探究型学習とは？



3つのプログラムでは、児童生徒がそれぞれの年齢に応じた形で以下ができるようになることを目標としています。

- 自分で探究をデザインすること
- 自分の探究に役立つさまざまな方法を評価すること
- 諸課題に対する自分なりの答えを見つけたり、問題解決したりするのに役立つ調査、実験、観察、分析を行うこと

探究型学習とは？



構造化された探究	導かれた探究	オープンな探究
• 教員が生徒に調査のための質問をする • 生徒は所定の過程で調査する	• 教員が生徒に調査のための質問をする • 生徒は自身の問題解決手順を考案する	• 生徒が質問を考案し、調査する • 生徒は自身の問題解決手順を考案する

協同学習の5つの基本要素

1. 互恵的な相互依存性
2. 対面的な相互交渉
3. 個人としての責任
4. 社会的スキルや小グループ運営スキル
5. 集団の改善手続

Johnson, D. W. and Johnson, R. T., Holubec, E. J. (1993) Circle of learning: Cooperation in the classroom (4th ed.). Interaction Book Company. (杉江修治ら訳 1998. 学習の輪 - アメリカ協同学習入門)

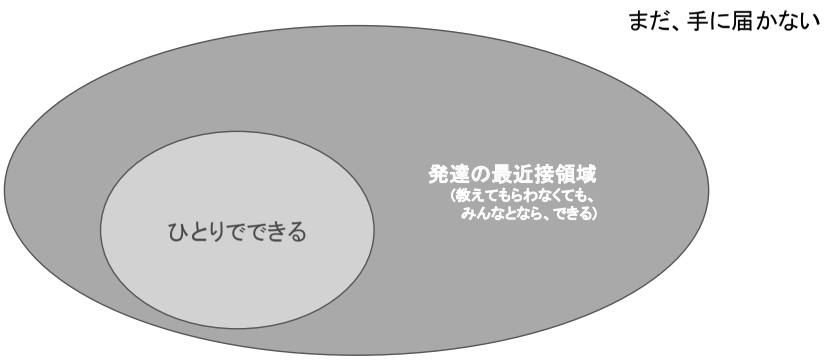
IBプログラム科目の「指導の方法」

- 優れた教育実践は、IBあるいはその他の特定の教育プログラムにのみ根ざしているものではない。
- しかし一方で、IBの理念と原則の下では、教師は自分自身が行っている指導実践を、**生涯学習者として**、常に意識しなければならないという意味で、IB以外で経験した教育実践とは少し異なるのかもしれない。

IBプログラム科目の「指導の方法」

- 学習においては、意味のある質問や流れが注目されるべきであり、学習者の声は教師の声と同様に重要であると考えられる。
- 教師は「知識の伝達者」ではなく、生徒の「**学習の支援者**」と捉えられ、有用な発問や課題を駆使して「発達の最近接領域」における学習を支援することになる。

発達の最近接領域 (ZPD)



学びを育むファシリテーターとしての教師

- **学びのプロセスに焦点を合わせる**

  生徒の焦点を学びのプロセスに向ける課題と指導法を優先的に扱う

- **概念的な理解を現実世界の状況とつなげる**

  生徒を、なぜ？、いつ？、どのようにしたら分かるのか？　どの状況だと当てはまるのか？　といった、主軸となる質問形式の問い参加させる。

学びを育むファシリテーターとしての教師

Teach するのではなく…
Learn させる教育を

Give するのではなく…
Catch させる教育を

小原國芳(1969)「全人教育論」玉川大学出版部

著者紹介

上杉　嘉見（うえすぎ　よしみ）
　東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター准教授。博士（教育学）。専門は、カリキュラム学、メディア教育学。

本柳　とみ子（もとやなぎ　とみこ）
　早稲田大学非常勤講師。博士（教育学）。専門は、比較教育学、オーストラリアの教育、教員養成。

山崎　智子（やまざき　ともこ）
　南山大学教職センター／人文学部講師（2016 年 9 月～）。修士（社会科学）。専門は、教育行政学、高等教育論。

カメダ　クインシー（Quincy Kameda）
　玉川大学学術研究所 K–16 一貫教育研究センター講師（国際バカロレア教師教育プログラム担当、2014 年 9 月～）。Honours B.Sc. (Astronomy and Physics)、M.Ed. (Curriculum Studies and Teacher Development)。
　2008 年より玉川学園にて、MYP 理科・数学、DP 物理・数学・TOK を担当し、DP コーディネーターを務める。2010 年より MYP/DP ワークショップ・リーダー、DP 物理試験官、2013 年より IB 認定訪問チーム・リーダー、DP コンサルタント、2015 年 6 月より国際バカロレア機構日本教育専門官を兼務。

Project Report on Global Dimensions of Initial Teacher Education: Comparative Study of Teacher Preparation for the International Baccalaureate Programme

Edited by Curriculum Center for Teachers, Tokyo Gakugei University

CONTENTS

Summary of the Project Yoshimi Uesugi 5

Articles

IB Teacher Certificate Programs at the University of Melbourne, Australia
Tomiko Motoyanagi (Waseda University) 9

International Baccalaureate Diploma Programme and Initial Teacher Education in British Columbia, Canada
Yoshimi Uesugi (Tokyo Gakugei University) 23

Practical Initial Teacher Training for International Baccalaureate at Durham University, England
Tomoko Yamazaki (Nanzan University) 47

Presentation

Tamagawa Academy K−12 & University: The IB Diploma Programme and Teacher Development
Quincy Kameda (Tamagawa University) 59

教員養成課程におけるグローバル次元の研究
― IB 教員養成の国際比較 ―
（報告書）

2016 年 12 月 12 日 発行

編集・発行　東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL　042（329）7776　FAX　042（329）7786
印刷・製本　株式会社　芳文社
〒194-0037　東京都町田市木曽西2-3-14